

九大広報

KYUSHU UNIVERSITY CAMPUS MAGAZINE

2014
05

MAY
2014 EDITION

vol.93



■インタビューシリーズ《九大人》

日仏整形外科学会 会長 福岡日仏協会 会長

小林 晶

■シリーズ研究《フロントランナー》

総合理工学研究院 エネルギー理工学部門 准教授

山本 直嗣

■新しき挑戦者たち

農学研究院 日本学術振興会 特別研究員-PD

熊添 基文

工学部日本館の建築

九州大学工学部の最初の本館は1914(大正3)年3月に竣工したが、1923(大正12)年12月の火災により焼失した。箱崎キャンパスに現存する工学部日本館は、その跡地に建設されたもので、1928(昭和3)年11月に起工し、2年後の1930(昭和5)年11月に竣工した。鉄筋コンクリート3階建、一部地階、中央に塔屋を持つ。建坪922坪、延坪3,315坪。設計は当時の建築課長倉田謙によるもので、倉田はこの本館のほか、旧法文学部本館や病院キャンパスの基礎研究A棟等の設計も担当した。写真は特徴ある外観が出来上がっているため、1930(昭和5)年初夏の頃のものであろう。本学を代表する建物である工学部日本館建築中の珍しい写真である。

(大学文書館 教授 折田悦郎)



九大広報 CONTENTS

KYUSHU UNIVERSITY CAMPUS MAGAZINE 05 MAY, 2014 EDITION vol.93

- 02 平成25年度学位記授与式／平成26年度入学式を挙行
- 03 【インタビューシリーズ・九大人】
小林 晶 日仏整形外科学会 会長 福岡日仏協会 会長
- 07 【シリーズ研究・フロントランナー】
山本 直嗣 総合理工学研究院 エネルギー理工学部門 准教授
- 11 【新しき挑戦者たち】
熊添 基文 農学研究院 日本学術振興会 特別研究員-PD
- 13 【躍動】サークル紹介
放送研究会
- 15 九大生が案内する世界のキャンパス
- 16 受賞のお知らせ／ようこそ九州大学へ
- 17 クローズアップ クローズアップ ① 九州大学法学部GVプログラム設置
クローズアップ ② 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援事業
- 22 TOPICS 椎木講堂こけら落とし演奏会を挙行
平成26年度 開学記念行事を開催
- 23 KYUDAI NEWS!
- 28 九州大学基金 ⑬
- 29 同窓会だより 経済学部同窓会関西支部総会
富士通松原会総会
在京親和会総会
九州大学学生寮同窓会30周年記念祝賀会の開催について
- 31 新聞で報道された九州大学
- 33 告知板 九州大学オープンキャンパス2014
九州大学応用力学研究所 RIAMフォーラムのご案内
健全で快適なキャンパス環境をめざして
- 34 編集後記

表紙について

伊都キャンパスセンターゾーンに完成し、2014年3月4日(火)に落成式が行われた「椎木講堂」。最大約3,000人が収容できるメインホールは、大規模な学内行事をはじめ、講演会や演奏会に活用され、教育・文化の新しい拠点となっていきます。ホールの客席には、九州大学のシンボルカラーが用いられており、落ち着いた雰囲気の中に、百年の歴史の重みを感じさせるものになっています。

関連記事P22

編集・発行 九州大学広報専門委員会
事務 九州大学広報室
住所 〒819-0395
福岡市西区元岡744
TEL 092-802-2130
FAX 092-802-2139
E-mail koho@jimu.kyushu-u.ac.jp
URL http://www.kyushu-u.ac.jp/
印刷 城島印刷株式会社
編集協力 取材:藤浦一都
撮影:今村成明

- ◎お読みになってのご感想やご意見をお待ちしています。
- ◎本誌記事を転載する場合は、事前に九州大学広報室までご連絡願います。
- ◎「九大広報」は九州大学Webサイトでもお読みいただくことができます。
- ◎次号は、2014年7月発行予定です。



平成25年度

学位記授与式

平成26年3月25日(火)、平成25年度学位記授与式を挙行しました。

九大フィルハーモニーオーケストラによる祝賀演奏の後、10時10分から始まった学士学位記授与式では、有川総長から11学部 of 総代と21世紀プログラムの総代にそれぞれ学位記が授与され、2492

名が卒業しました。

有川総長は告辞において、卒業生に対して「皆さんは九州大学で個々の知識だけを学んできたのではなく、知識を学ぶプロセスを通じて「学び方」や「考え方」を学び、未知のことや未経験の課題へ対峙できる力をつけてきました。九州大学を巣立ち、グローバル社会を牽引するリーダーとして大成されることを期待します」とはなむけの言葉を贈り、学部卒業生を代表して薬学部の大園由衣さんが「百

年の歴史と伝統を持つ九州大学卒業生としての誇りを胸に、これからの日本のために、ひいては世界のために大きく貢献できる人間になることを目指します」と答辞を述べました。

13時40分からは同会場で大学院の学位記授与式が行われ、修士学位記、専門職学位記、博士学位記が各総代に授与され、2237名が大学院を修了しました。

椎木講堂で、初の学位記授与式と入学式を挙行

平成26年度

入学式

平成26年4月7日(月)、平成26年度入学式を挙行し、11学部と21世紀プログラムの2688名が新たに九大生となりました。

九大フィルハーモニーオーケストラによる祝賀演奏の後始まった入学式では、有川総長が新入生への告辞で、「皆さんの能力は、今皆さんが自分で感じているより遙か

に高い。そのことを信じて、最大限の努力をして、国や大学が用意している留学を始めとする様々な支援制度や施設等を積極的に活用し、素晴らしい学生生活を過ごし、将来の飛躍のための基礎体力と強靱な精神力を身につけられることを期待しています」と述べました。

続いて、新入生総代の峰萌絵さん(21世紀プログラム)が、「私達は九州大学教育の趣旨を体し、自立の精神を重んじ、学術を

極めるとともに、自ら人格の陶冶に努め、社会の期待に沿うことを誓います」と誓詞を朗読しました。また、来賓の久芳徹夫(京セラ株式会社代表取締役会長(昭和54年工学部卒)より、新入生を激励する祝辞をいただきました。

式後には同会場で、丸野理事・副学長による講話、男声合唱団「コールアカデミー」による学生歌「松原に」合唱、応援団・チアリーダーによる演舞披露、学生生活ガイドダンスがありました。



このインタビューは、
2014年4月24日に、
箱崎キャンパス内にて行いました。

日仏整形外科学会 会長
福岡日仏協会 会長

小林 晶

AKIRA KOBAYASHI

小林氏は、1956年に九州大学医学部を卒業され、1957年に九州大学病院整形外科に入局されました。1961年に大学院を修了後、フランスのリヨン大学へ二度にわたって留学。1965年からは、九州大学整形外科講師、1975年からは助教授として、後輩たちの指導にあたりました。1977年に設立された福岡整形外科病院では理事長・院長を経て2002年から顧問を務められています。

また、日仏の交流にも尽力され、フランス政府から1980年にはバルム・アカデミック勲章(シュヴァリエ)(教育文化勲章)を、2013年にはレジオン・ドヌール勲章(シュヴァリエ)を受章されました。

医療は、いつの時代も人対人。 視野の広い人間となれ。

小林晶さんは、昭和31年に九州大学医学部を卒業された大先輩。九州大学医学部の講師、助教授、非常勤講師として、長年にわたり医療人の育成にも尽力されました。また、在学時からフランスに憧れ、二度のリヨン大学留学を経験するとともに、昭和62年には日仏整形外科学会を創立し、そのほか福岡―ポルドー姉妹都市委員長、フランス整形災害外科学会名誉会員、フランス医史学会会員としてフランスとの医学・文化交流に大きく貢献されました。今年6月には九州国立博物館で第115回日本医史学会総会・学術大会が開催されますが、副会長として準備に追われる毎日です。今回は、昔の九州大学を知る小林さんに、大学文書館の折田悦郎教授が、歴史的観点を交えながらお話を伺います。



フランス語の美しさに魅了された。

——まずは九州大学医学部に入るまでの経歴についてお聞かせください。

小林・旧制福岡県立豊津中学4年のときに、事情があつて修猷館に転校し、第4学年修了まで数ヶ月間在学しました。ですから私にとっては修猷館はあまり馴染みがありません。そこから旧制福岡高校に入るので、旧制高校は文科と理科に分かれていて、どちらかを選ぶわけですね。当時、私は外交官になりたくて、文科に行きたかったのですが、戦後の焼け野原が残る時代ですから、外交官などと言っている場合はありませんでした。父親が日頃から「何か技術を身につけろ」と言っていたもので、ですから、やむを得ず理科を選ぶことになったのです。理科には、主として工学部・理学部系に向かう甲類と、農学部・医学部系向きの乙類があつて、理数系が得意ではなかったため、仕方なく理科乙類を選んだというわけです。実家が医者をやっていたわけではないので、何になつてもよかつたのですが、消去法で医学部の道に進むことになったのです。考えてみれば主体性のない話ですが……(笑)。

しかし、在学中から肺結核を患い

2年ほど遅れて卒業証書を得ました。この間教育制度が大幅に変わり、大学は新制度のものになっていました。2年遅れて入学してみれば、2年上には高校の同級生がいて、教科書を借りられるし、貧乏学生の私には大いに助かるというメリットもありました(笑)。ここで外国語の話をしておきましょう。

——その当時、旧制高校の理科乙類で学ぶ第一外国語というので、ドイツ語ですね。

小林・そうですね。第一外国語がドイツ語で、第二外国語が英語でした。ドイツ語の授業は週に13時間もありまして、英語の授業が6時間ありました。ということは授業時間の半分以上は外国語ですから、柔軟な頭脳の時期には否応なしに、乾いた砂に水が浸み込むように、頭叩き込まれましたよ。お蔭で80歳を越した今でもドイツ語の文献を読むのは楽ですよ。だから子どものころからの外国語の訓練は、特に音声の点からは意義がありますね。

——フランス語への憧れをお持ちになったのは、フランス映画の影響だそうですね。

小林・千代町の交差点にあつた国際劇場という映画館で、リバイバルで沢山のフランス映画が上映されました。昭和初期から戦前はフ



ランス映画の黄金期ですからね。その情緒、優雅、天使の声とも思われるような会話の美しさなどにカルチャーショックを受けました。

幸いにある出版社がシナリオを出版していて、それを手に入れて、スクリーンの下に座って、最初は映画のプロットを楽しんで、2回目からはシナリオを片手に会話を原文で追っていきました。そうしているうちに「この文化に接するには、現地の石の家に住んで話したい、じかに全てに触れたい」と思うようになったのです。

その後、日仏協会が1957年にできてすぐに入会したのです。たまたまアメリカ総領事の子どものご家庭教師をやつてきたロミエさんというフランス婦人に協会を通して紹介してもらい、個人授業をお願いして5年ほど通いました。何しろ日本語はおろか英

語も話さない人でしたから、何とかして仏語で話さざるを得ないことが幸いしました。

——それが後のフランス留学に結びつくわけですね。

小林・当時の日本は貧乏で外資がなく、自由に海外に渡航できる時代ではなかつたので、留学するには外国の奨学金の資格を取るか、外国のスポンサーを探すしかありませんでした。そこで、フランス政府による留学生試験を受けることになったのですが、これが難関であることは仄聞していました。関東、関西にはすでに日仏学院の受験専門の課程が設置されていて、ここを受験生とのコンクールになるわけです。これに勝ち抜くには仏語を訓練するしかないと思ひましてね。ロミエさんの授業とは別に、医学部のフランス好きを集めて仏語同好会を

作つて、仏文科の先生を呼んで課外授業をやつてもらつたりしましたね。当時の医学部には卒業後、医師としての研修制度があつて、一時福岡を離れて外部の病院に出る時があるのです。その間も教会があればフランス人のカトリックの神父さんを探して会話をしました。言語を身につけるには、とにかく訓練が途絶えないようにすることが一番大切だと思います。一人でいる時も独り言を仏語で繰り返すのです。音声言語である仏語は、耳と口を常に機能させておく必要があると思つています。こういう点ほどの言語でも同じなのでしょうが……。また、私自身の自戒を含めて、よく言われるように日本語と文化のしっかりした知識の土台が望まれます。これはとくに若い人に力説しておきたいことですね。

整形外科なら九州大学。それが誇らしかった。

——ところで、当時の医学部における専門教育の状況について教えてくださいいただけますか。

小林：極端な言い方をすれば、カリキュラムは明治時代と変わらなかったですね。アメリカ医学がほんの少し入ってきた時代です。基礎医学の先端教育は少しだけ英語を使っていたんですが、ほとんどはドイツ語でした。基礎を1年半ほど学ぶと、そこに診断学が入ってきます。そして3年目から臨床が始まるという流れです。私は昭和27年に専門課程に入りましたが、終戦から7年しか経っていないので、アメリカの文献がそう多くはなかった時代です。大濠にあったアメリカ軍の病院まで文献を見に行っていました。

——現在のよう**に医学教育の現場で英語が主流になるのは、もったいなくはないですか。**

小林：英語で学ばれた方が教壇に立つようになってからでしょうか。昭和40年代に卒業された方ぐらいいいではないでしょうか。私は卒業まで英語の授業に違和感を抱いていましたし、ドイツ語の方が学問的に体系づけられているように思えましたね。

——**先生は、どのようなきっかけ**

で整形外科を選ばれたのですか。

小林：二つには、基礎医学が嫌で臨床に行きたかったというのがあります。もともと理数系が苦手でしたから、薬理学や衛生学の試験も2回落ちましたし、薬の名前や極量(使用できる薬の限度量)を覚えられなかったので、内科系は無理だと思いました。腕を振るうこ



▲1990年、恩師・天児民和先生(左)とともに

とができる方がいいと思っただけですが、当時の外科系は封建的な空気が強かったので、そこも嫌だな、と。そのときに、後の恩師となる天児(民和)先生の講義を聞いて、講義の仕方や学生への接し方が素晴らしいと感じたのがきっかけですね。外科は悪いところを取ってしまっただけなのに対して、整形外科はものを創っていく、身体を修復

していく医学だと聞いて、おもしろそうだなと思いました。

——**医学というドイツのイメージが強いのですが、ドイツとフランスの整形外科にはどのような違いがあるのでしょうか。**

小林：ドイツは、伝統的に外傷外科は一般外科が診ます。フランスや日本では、運動器は整形外科が診て、脳を含めた内臓系は一般外科が診ます。国際整形外科学会が1930年代にできるときも、ドイツだけは「そんな区別は必要ない」と反対しました。

——**九州大学医学部に整形外科ができたのは、随分と早かったようですが。**

小林：東京大学、京都大学に続いて国内で3番目ですね。先見の明があったということでしょう。私が東京でのインターンを終えて「九州大学の整形外科に入る」と告げると、みんなが「素晴らしいと

ころに入れてもらう」と言うわけですよ。当時、「整形外科なら九大」と言われていたことは、すごく誇らしかったですね。

百年來の医学都市、フランス・リヨンへの留学。

——**フランスへ二度留学されていますが、どうしてパリではなくリヨンを選ばれたのですか。**

小林：最初の留学は、フランスではアルジュリアの独立戦争がある時代でした。ドゴール大統領がテレビで国民の団結を呼びかける演説をし、外国人は凱旋門にも登れない時代です。パリは住居や職業事情も良くなって、物価もすごく高かったので、地方都市の方がいいと思いました。リヨンは百年來の医学の盛んな都市で、ノーベル賞を受賞した有名な医学者も多く輩出していましたからね。田舎で

すし、下宿先の人達にとっても良くしていたら、フランスの実生活に触れることができました。

——**当時のフランスの医療を体験されて、どのような点が日本と違うと思われましたか。**

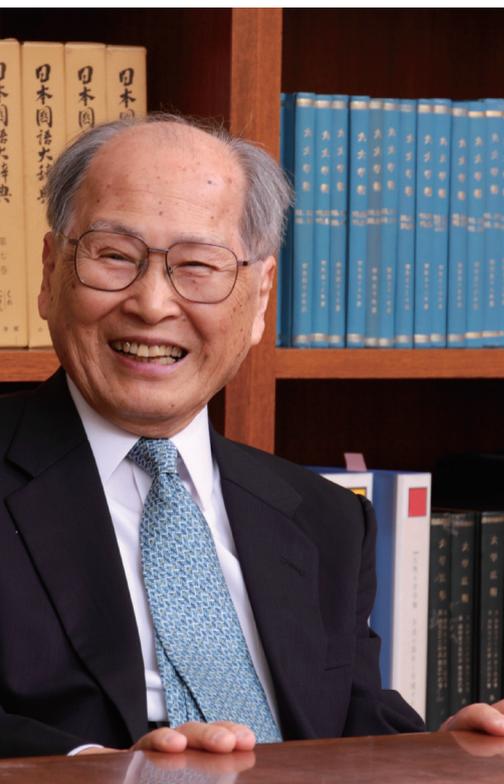
小林：機械の目新しさは少しはありましたが、技量は同じでしたね。でも、一番違うのは、人の使い方です。日本では、ドクターが雑用まですべてやるので、とにかく忙しい。でも、フランスの上級医師は所見をしゃべるだけ、ギブスを巻くのも指示をするだけで、専門の助手がやってくれます。その違いは大きいですね。

——**先生は、昨年「仏日・日仏整形外科学用語集」の編纂にもご尽力されたそうですが。**

小林：1989年に森崎直木先生が編集されたものをリニューアルしたので、日本語からも検索できるように作り替えたので、3年ほどかかりました。

——**フランス政府からレジオンドヌール勲章を授かったのは、先生が長年に渡って日仏の医療・文化の交流に貢献されたからですね。福岡に日仏学館を作る際には、保証人にもなられたとお聞きしています。**

小林：福岡の日仏学館は、東京、京都に次いで3番目ですが、赤坂けやき通りのビルを借りる際の保証



小林：医史学会は日本医学会の分科会の中では最も古い学会で、今年で115回を数えます。ウォルフガング・ミヒエル会長のもとで開催されます。準備はほぼ終わりましたが、これを機会に多くの人に参加をして頂きたいと思っています。九州大学医学部百年の歴史の中には多くの貴重な歴史的資料がありますし、今「医学歴史館」を病院キャンパス内に建設中で、

——日本医史学会の功労会員もさ
れていて、この6月には医史学会を
太宰府で開催されるそうですね。

九州大学百年の歴史を 大切にしてほしい。

▶編纂に3年をかけた
「仏日・日仏整形外科学用語集」



人になって、大統領からお礼の手紙をいただきましたよ。1980年には教育文化勲章のバルム・アカデミック勲章もいただきましたが、二度に渡る授章は、日仏のたくさんの方々のおかげだと思っていますし、みなさんにとっても感謝しております。

小林：二番望むのは、視野の広い人間になってほしいということです。ただ、私が学んでいた時代と違って、今の医学生は新しい医療、新しい技術に追いつかれていっているのが現状で「それどころじゃないよ」と言うかもしれないが、医療はどんな時代も1対1、人対人なのです。医療人として人と接するために、ぜひ自分自身の視野を広げていってください。

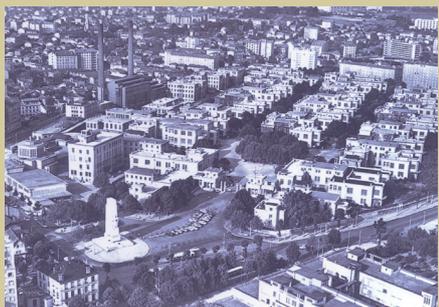
——最後に、九州大学で学が在学
生、医学生にメッセージをお願いします。

小林：私たちが学んだ木造の威厳のある校舎が取り壊されてしまいました。明治36年に最初にできた解剖学講堂は、あれだけでも保存したいと思って、何とか中央講堂の横に移転できるようにしたのです。でも、それをまた撤去することになってしまい、奮起しました。百年もの歴史がありながら、移転をするたびに大事なものが失われていくのは、悲しいことです。百年もの歴史をもっと大切にしてくださいね。

ここに資料を展示したいと考えております。これには他学部の資料も共通の財産として発展させたいと念願しています。
——今もごぞいましたように、九州大学の医学歴史館の創設にも関わっていらっしやいますか。
小林：私たちが学んだ木造の威厳のある校舎が取り壊されてしまいました。明治36年に最初にできた解剖学講堂は、あれだけでも保存したいと思って、何とか中央講堂の横に移転できるようにしたのです。でも、それをまた撤去することになってしまい、奮起しました。百年もの歴史がありながら、移転をするたびに大事なものが失われていくのは、悲しいことです。百年もの歴史をもっと大切にしてくださいね。



▲1961年、リヨン大学の整形災害外科病棟にて
(前列左端が小林先生)



▲リヨン留学時に学んだ1960年頃の
エドゥアル・アリエオ病院



▲フランス・オーベルニュにあった
下宿先のおじいさんの家



▶フランスの最高勲章とされる
レジオンドヌール勲章

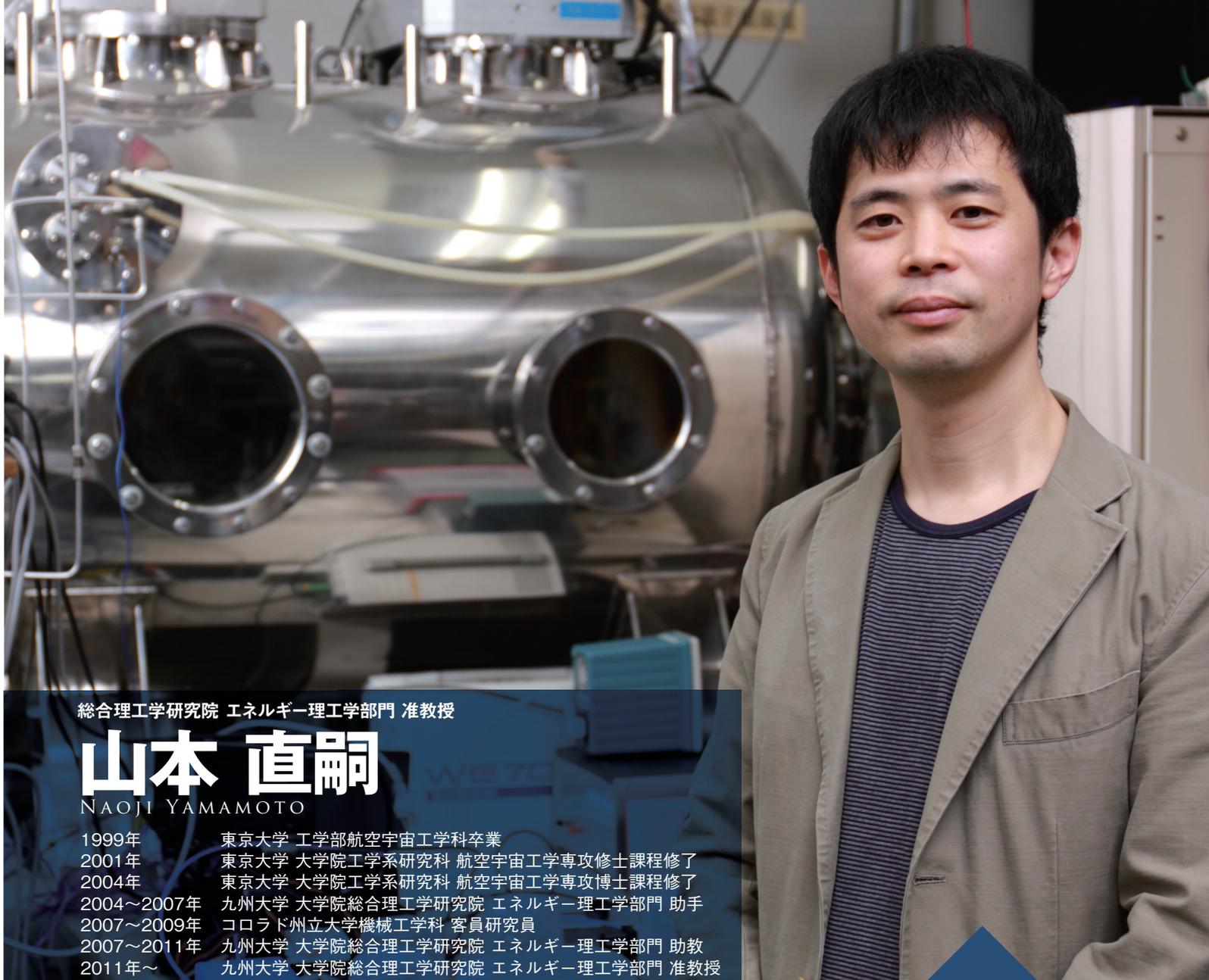


▲1980年に受章したバルムアカデミック勲章



（聞き手（左）
折田悦郎（おりた えつろう）
大学図書館教授 大学史資料室長
人文科学研究院教授





総合理工学研究院 エネルギー理工学部門 准教授

山本 直嗣

NAOJI YAMAMOTO

1999年	東京大学 工学部航空宇宙工学科卒業
2001年	東京大学 大学院工学系研究科 航空宇宙工学専攻修士課程修了
2004年	東京大学 大学院工学系研究科 航空宇宙工学専攻博士課程修了
2004～2007年	九州大学 大学院総合理工学研究院 エネルギー理工学部門 助手
2007～2009年	コロラド州立大学機械工学科 客員研究員
2007～2011年	九州大学 大学院総合理工学研究院 エネルギー理工学部門 助教
2011年～	九州大学 大学院総合理工学研究院 エネルギー理工学部門 准教授

時代のニーズを先読みした プラズマエンジンの研究を続けています。

【聞き手】情報基盤研究開発センター

鈴木 孝彦 准教授

山本：「先生個人」のWebサイトを拝見すると、宇宙デブリ(宇宙ゴミ)を回収可能な小型イオンエンジンの開発とありますが、これについてご説明いただけますか。

山本：「はやぶさ」でも有名になったイオンエンジンの研究です。プラズマとは、原子から電子が飛び出して、イオンと電子が自由に動き回っている状態になっていることを言います。その状態では、電場や磁場の影響を簡単に受けてくれるので、とても燃費の良いエンジンを作ることができます。このイオンエンジンがあったからこそ、「はやぶさ」のミッションは成功したと言えるのです。ただ、「はやぶさ」のイオンエンジンは大きすぎて、大学の研究では手に余るので、さらに小さいサイズのエンジンを作っています。今は、小型衛星の開発が活発になっていくので、そのような小型衛星に搭載するようなプラズマエンジンを作りたくて、研究・開発を続けています。

「はやぶさ」より小型のイオンエンジンの研究。



「フロントランナー」は、九州大学の研究の最前線をインタビューで紹介するシリーズです。今回は、総合理工学研究院の山本直嗣准教授に情報基盤研究開発センターの鈴木孝彦准教授がお話を伺います。

さのものがありません。そこその大きなサイズのデブリを地球に持って帰るといふか、地球に落とすようなものができたらな、と考えています。エンジンばかりを研究していると、その周りの必要な部品のこととがわからなくなりますが、それを誰とどうやって開発していけばいいのかが今後の課題です。

—そういった他分野との協力については、どのような努力をされていますか。

山本：学会に出た際に、異分野の方々のお話をしっかりと聞くこと、そして積極的に質問をすることでですね。質問をすることで仲良くなると、自然と声をかけていただけます。そうやって周辺を広げていくことで、いろいろな方と研究をさせていただいています。

火星に食料を運ぶために使われる可能性もある。

—そもそも次世代ロケットエンジンを研究しようと思われたきっかけは何だったのでしょうか。

山本：「そこに山があるから」ではないですが、学生時代からロケットエンジンに興味があったからでしょうね。その中でもプラズマエンジンの先生がすごく楽しそうに講義をされていたのが始まりですね。

—プラズマエンジンは、世界的にいつ頃から使われていたのか。

山本：私が大学に入る頃にプラズマエンジンの実用化が進みました。一つには、アメリカの小惑星探査機が成功し、その有効性を示したということと、もう一つはソ連の崩壊によって、ソ連が持っていた技術が西洋諸国に知れ渡ったことが大きいですね。そこからどんどん使われはじめ、現在は200以上の人工衛星や探査機で使われています。

—プラズマエンジンの利点はどこにありそうですか。

山本：一番の利点は燃費がいいことです。酸素と水素などの化学反応を利用したよく見るロケットエンジンですと、燃料が探査機の半分ぐらい占めてしまうのですが、これをプラズマエンジンに置き換えると10分の1ぐらいで済んでしまいます。そのため、衛星を小さく軽くすることができます。たとえば、気象衛星「ひまわり」のような静止衛星であれば、打ち上げの途中からプラズマエンジンを使うことによって、コストを約半分抑えることができます。

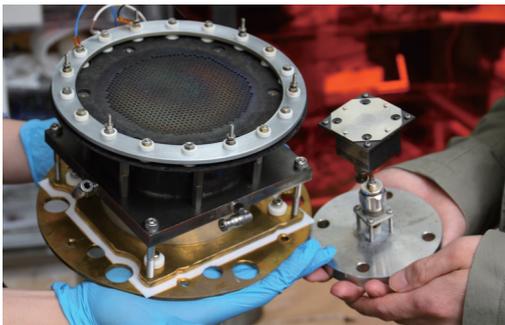
—その利点を生かしてきますか活用されそうですか。

山本：将来の有人火星探査に向けて、人が乗る宇宙船ではなくて、前もって食料や燃料など必要な物を運ぶ貨物船のエンジンに使う計画もあります。その前段階として、ア

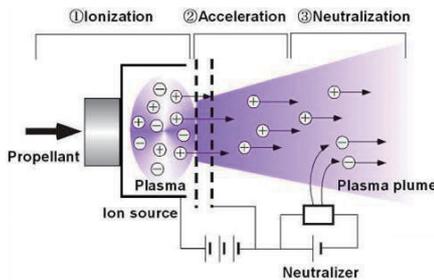
メリカでは小惑星を捕獲する計画のエンジンとして採用されようとしています。

—アメリカといえば、山本先生がコロラド州立大学に研究員として行かれたきっかけは、どのようなものだったのですか。

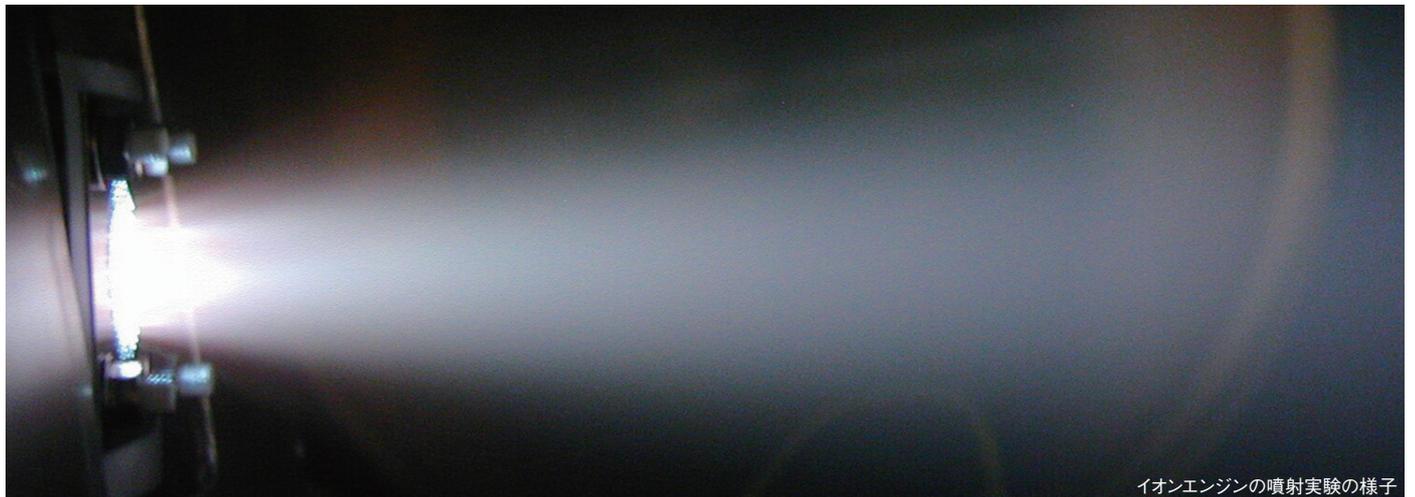
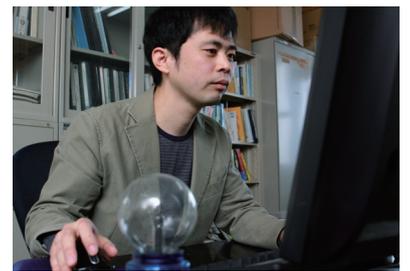
山本：学会で同じような発表をしていて、発表後に意気投合したのがきっかけです。ヤリン先生（コロラド州立大学の先生）のほうが、より高度な実験をされていて、行ってみたいと思いい、行っていいかと尋ねたところ、快く了承いただいたので、がんばって行ってきました。向こうでは、光の計測技術を学びました。レーザーを使ってエンジンの寿命評価をするための技術です。今でもコロラドでの知識を使って研究をやっていますし、ヤリン先生とは共同研究も続けています。



「はやぶさ」に使われたものと同型のイオンエンジン（左）と、山本准教授が開発している小型イオンエンジン



イオンエンジンの仕組みの解説図
プラズマ中のイオンのみを電場を使って加速して、その反作用で推力を生み出します。そのままではエンジンは負に帯電してしまうので、別の部品から電子のみを放出し、中和します。



イオンエンジンの噴射実験の様子

① 研究について熱く語る山本准教授。九州大学に来て約9年、ところどころに混じる関西弁が親しみを増します。
 ② 未来のエンジニアたちが学ぶ研究室 ③ 並木の緑が美しい筑紫キャンパス ④ 山本准教授のお気に入りであるトイレ内の生花。「清掃のパートをされていた岡崎さんという方が始めてくださって、今も受け継がれています」



「コロナド州立大学に行かれて、研究以外のことで何か感じたことはありませんか。」

山本：普段は1日実験に没頭して、夜はSkypeやメールで九州大学の学生とのやりとりをする二重生活でしたが、週末にはスキーに行ったり、サイクリングに行ったりしました。勉強にもなりましたが、楽しいこともたくさんありました。感じたことと言えば、向こうでは、自分の大学のTシャツを着ている学生の両方に没頭して、自分に自信を持っているように思えました。こちらでは、九州大学のTシャツを着ている学生ってほとんどいませんが、「九州大学と言えばこれだよ」というものがあればいいなと感じました。大学として、みんなでもっと成果を上げていけば、九州大学のTシャツを着る学生も増えてくるのかな、と思いますね。

観測のニーズにあったエンジンを作っていきたい。

——実際にプラズマエンジンを作製されているのですか。

山本：はい、作っていますよ。ただ、いいものを作れば使ってもらえるわけではなくて、衛星を打ち上げる側のニーズにいかに応えられるかが大切になります。プラズマエ

ンジンが商用衛星に使用される頻度が増えた今、ベンチャー企業の参加がますます盛んになっていくことに期待をしていますし、それだけ多様なニーズも生まれてくると思います。

——具体的にはニーズによってどのようなエンジンの作り分けが必要となるのでしょうか。

山本：たとえば観測する高度が地表から200キロ地点なのか、400キロ地点なのかでエンジンが必要とする推力は全く違ってきます。高度200キロ地点では、まだ大気がわずかに残っているのので、その抵抗を受けることになり、エンジンに求められる推力は大きくなるのです。衛星を打ち上げる側が何を観測したいのか、そのニーズによって、エンジンを作る側の目標も変わってくるわけです。ですから、いかにニーズの先読みができるかがプラズマエンジンの研究・開発の鍵となります。

筑紫キャンパスの横のつながりに感謝。

——山本先生は平成23年度科学技術分野の文部科学大臣表彰「若手科学者賞」を受賞されていますが、受賞の対象となったのもロケットエンジンの研究ですか。

山本：はい、小型イオンエンジンの

研究に対していただきました。でも、受賞は、決して私ひとりの成果ではありません。学生の皆さんの積み重ねでもあり、機会をくださった中島秀紀先生のサポート、実験器具をご提供いただいた方々など、本当に周りのみなさんのおかげなのです。特に受賞したエンジンを作るにあたっては、技術職員の方々の打ち合わせの中でたくさんの方の提案をいただきました。そして、もう時間がないという時には、徹夜で作製にあたっていたいただきました。

——恵まれた環境あつての受賞ということですね。

山本：はい。それともう一つの恵まれた環境として、筑紫キャンパスの研究環境もだと思います。エンジン内部のプラズマの状態を知りたいと思ったときも、別の先生から、「一緒にやろうよ」と声をかけていただきました。そのような横のつながりが、受賞できた大きな要因だと思います。本当に、この筑紫キャンパスの研究環境は、私にとってはありがたい環境だと思います。

——ほかに筑紫キャンパスについて思っていることはありますか。

山本：一つはアクセスの良さですね。空港から20分、博多駅からも10分ですから、外国の先生が来日した際も「ぜひ寄ってください」と

言いやすい。実際に昨年春に、ヤリン先生が横浜に学会でこられたので、ついでに筑紫キャンパスに来てもらいました。それと、清掃のパートの方がトイレにきれいな生花を飾ってくださったのですが、それを見るだけですごく心が和みます。そのような何気ない心遣いを、とてもうれしく思いますね。

失敗を共有して次につなげることが大事。

——研究を進める上で一番大事にされていることは何ですか。

山本：失敗を失敗と感じないことです。失敗から得られることは多いですし、失敗したことをみんなで共有して、次につなげていくことが大事だと思います。「こうやったら失敗する」ということがわかれば、それを有効活用すれば良いわけですし、やらないことは失敗もしませんから、まずは「やろう」と踏み出すことが大事です。とはいえ、高価な機械が壊れてしまふのは悲しいですけどね。

——実験の失敗で壊れてしまうこともあるのですか。

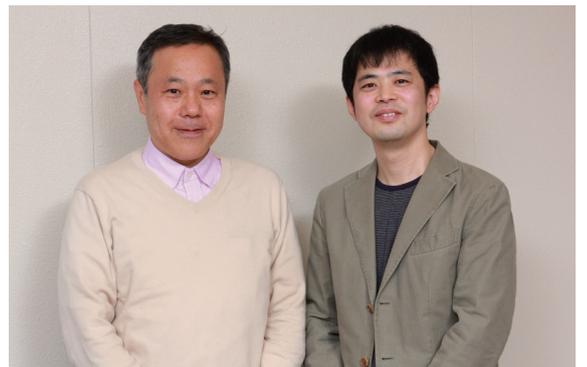
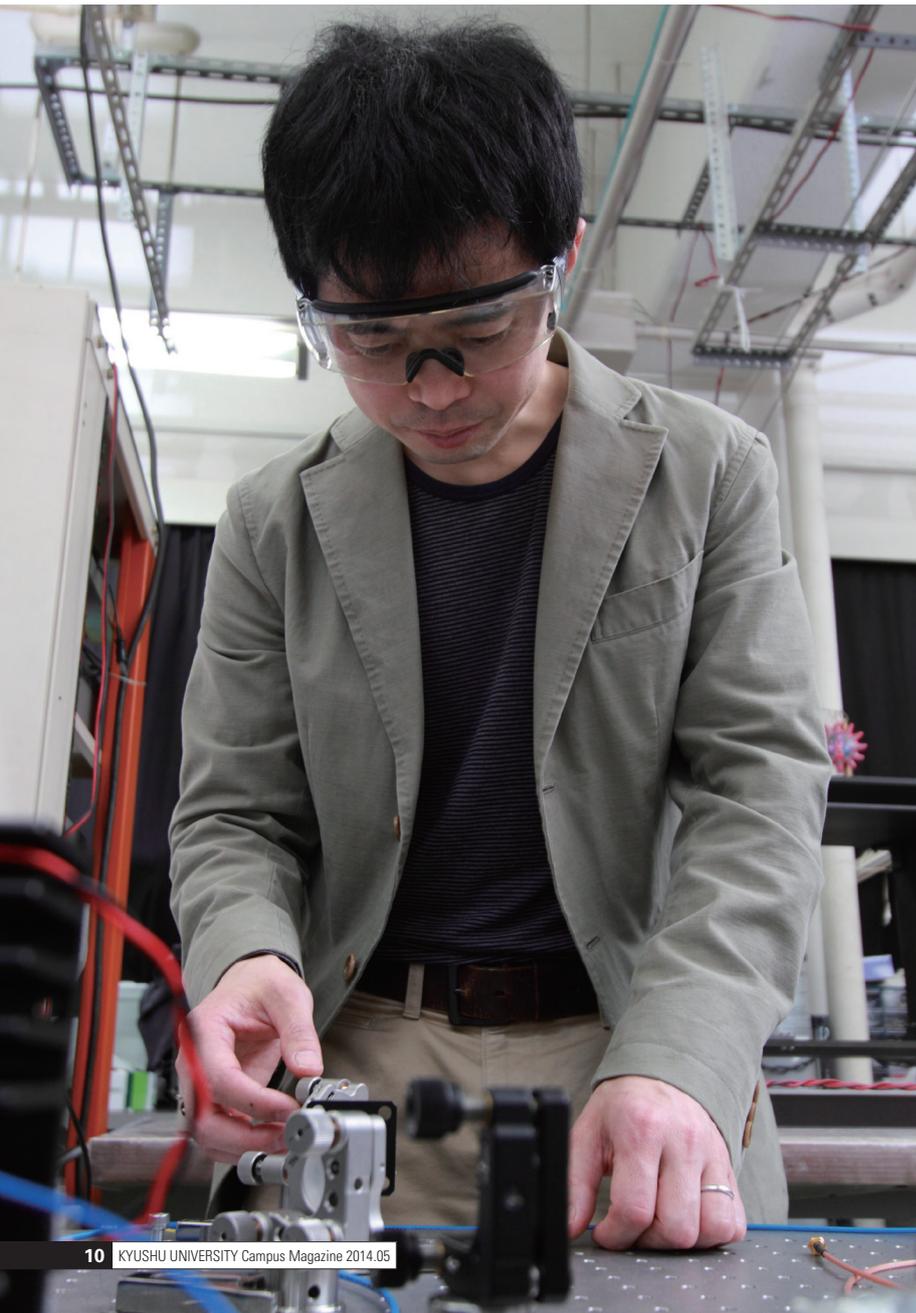
山本：はい。壊れてしまうのは仕方ないことなので、悲しい思いも共有して、壊した原因を次につなげてくれればいいのです。物を大切にする気持ちもエンジニアにとっては大事なことですし、次は壊さ

ないようにしようとすれば、観察力にもつながっていきますからね。学生が怪我さえしなければいいと思っています。

——それでは、最後に在学生のみなさんに山本先生からのメッセージをお願いします。

山本：大学や大学院にいる以上は、いろいろなことに挑戦してほしいですね。挑戦にはリスクが伴いますが、逆にやらないリスクというものもあると思います。想像力を働かせて、命にかかわらないことならやってみることで。想像力は、

人にとっても大切なもの。想像力を磨いて「やってみると、こういうことが起こるはず。だったらやってみよう」という考えを持つてほしいです。そして、自分自身が満足いく成果を出してくれたら、「九州大学に行つて良かった」と思えるはず。それは何も大きな話である必要はありません。毎日、真面目に講義に出たとか、源氏物語を読破したとか、そんなことでも構わないので、「大学生活を満喫した」と堂々と言える人になってほしいです。



▲鈴木孝彦准教授(左)と山本直嗣准教授

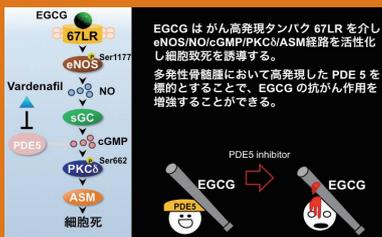


新しき  File25 挑戦者たち

農学研究院
日本学術振興会 特別研究員-PD

熊添 基文さん
MOTOFUMI KUMAZOE

九州大学で学び、目指す分野を究めようとする次世代のプロフェッショナルを紹介します。
今回登場していただくのは、生物資源環境科学府博士後期課程在学時に
「緑茶ポリフェノールEpigallocatechin-gallateによるがん細胞特異的な細胞致死誘導機構の解明」
という研究課題で日本学術振興会の「育志賞」を授賞され、
この春から日本学術振興会 特別研究員-PDとして新たなスタートを切った熊添基文さんです。



バット(EGCG)を大きくしなくても、阻害するヘルメット(PDE5)を取り除くことでがん細胞に与えるダメージを大きくすることができることを、わかりやすく図にしています。



研究室では、よき兄貴分として後輩の指導に当たっていますが「後輩たちの熱心な姿を見ていると、うかうかしていられないな、と大きな刺激になります」と熊添さん。



「無趣味なんです。予想外のデータが出た時が一番うれしいです」と語る熊添さんは、まさに「研究の虫」と呼ぶにふさわしい存在です。



日本学術振興会「育志賞」の授賞式で、恩師である立花教授と記念のツーショット。「立花先生には研究に対する真摯な姿勢を学びました」と語ります。

発想の転換から生まれた
より効果的な細胞致死誘導。

熊添さんは、緑茶に含まれるポリフェノールの一種EGCGの抗がん作用機構を明らかにするとともに、阻害要因を弱体化する研究を進めてきました。

阻害要因を取り除くことにより、抗がん作用を増強させるといふ、発想の転換。それは、イタリアのルネッサンス時代の思想家の言葉がきっかけでした。

「天国へ行く最大の近道は、地獄へ行く道を熟知することである」というマキアヴェッリの言葉を本で見たのがきっかけです。強めるというより、どうして効かないのかを探求した方が近道ではないか、と考えるようになりました」

研究チームの結束力に心からの感謝を。

熊添さんは、この研究によって日本学術振興会の『育志賞』を授賞しました。それでも、熊添さんは研究に「大きな苦労はなかった」と語ります。

「苦労したというより、後輩たちに苦勞をかけた方ですからね。私が苦手な実験も進んで手伝ってくれましたし、もっとこうしたらというアドバイスもたくさんくれ

ました。すばらしい仲間がいたからこそ、成し遂げることができたと、心から感謝しています」

また、熊添さんは授賞におこることはなく、この研究の未来を見ています。

「この研究は、まだマウスでの実験段階に過ぎません。この研究が、医療関係や薬剤関係の方々によって人に効くという段階まで発展させていただいた時に、最終的に喜びたいです」

大切な家族に誓った 抗がん研究への道。

がんとの戦いを目指す背景には、悲しい過去がありました。

「大学2年の時に、父をがんで失いました。言葉は悪いかもしれませんが、がんに対する仇討ちです」
さらに熊添さんは言葉をこう続けました。

「自分の目標は、みんなが追わないような、泥臭くて、本当に大丈夫なのかわからないものを追いつめて、まったく新しい戦略を提示することです。がんの治療薬、治療薬のターゲットとなるような機構を明らかにすることでがん医療に貢献したいですね。そんな泥臭い研究を支えてくれる先生方や共有できる仲間がいることが、私の一番の財産だと思っています」

かけがえのない仲間とともに 泥臭く「がん」に挑み続けたい



熊添 基文さん

- 福岡大学附属大濠高等学校 (福岡県)
- 九州大学 農学部 生物資源環境学科
- 九州大学 大学院生物資源環境科学府 生物機能科学専攻 修士課程
- 九州大学 大学院生物資源環境科学府 生物産業創成専攻 博士後期課程
- 日本学術振興会 特別研究員-PD

理系の研究者にとつての
未踏の地は足元にある。

熊添さんは、後に続く後輩たちに次のようなアドバイスをくれました。

「よく『外の世界に出る』という話がありますが、理系の人間にとつて、本当の意味の未踏の地というのは、目の前にある研究テーマだと思えます。研究は、地味で苦しいものですが、汗をかいて悩んできたからこそ成長できるので、外に目を向けることも大事ですが、どんなに苦しくても、まずは目の前のテーマに取り組んでほしいです」

実直という言葉がふさわしい受け答えに、熊添さんの人柄が滲み出ます。その実直さを武器に、熊添さんの「がんへの仇討ち」は続いていきます。



研究室の仲間たちと

指導教員より

目の前にある問題を突破する気概、
解決する能力は極めて高いです。

農学研究院
立花 宏文 主幹教授
(たちはなひろふみ)



熊添くんの研究に対する集中力は、素晴らしいですよ。一度研究に没頭すると周りが見えなくなる猪突猛進型ですが、目の前にある問題を突破する気概、解決する能力は極めて高いです。

私の研究室に入った時から、「がんを何とかしたい」という強い気持ちがありました。薬学的な発想を持ってしまいがちですが、食品の機能性が薬と同じ作用を持つ側面にこだわってほしいですね。食品という土台で戦ってほしい。薬学やほかの分野の人たちとまったく違った視点を持つことができると思います。

全国にたくさん博士課程の研究者がいる中で、『育志賞』授賞は、彼だけでなく、研究室にとつても、九州大学にとつても名誉なこと。特別研究員になって、また3年間研究に没頭できる環境に身を置いたので、世界に誇れる成果を期待したいと思っています。

ラジオ番組、ラジオドラマ制作などから
イベントの司会まで、
一人一人の個性を大切に幅広く活動しています！



放送部といえば、どのようなイメージを思い浮かべますか？
昼休みには音楽を流したり、
校内のイベントでは場の雰囲気を盛り上げたり。
みなさんに楽しい時間を与えてくれたのではないのでしょうか。
では、伊都キャンパスでは何をしているの？
大規模な大学ではもしかすると、
もっとすごいことをしているんじゃないかな！
今回の「躍動」では、
九州大学放送研究会の活動内容に迫ります。



▲九大祭(2013年)にて。ラジオ生放送の様子。

【取材協力】



部長
松本理佐さん
法学部2年



副部長
政池彩雅さん
工学部2年

躍動

放送研究会

サークル
紹介

九州大学の行事では
司会も担当しています。

放送研究会の活動内容を教えて
ください。

松本：活動は大きく分けて3つあり
ます。ラジオ番組の制作をする
「Dir皿部会」、ラジオドラマ制
作の「ラジドラ部会」、そしてアナ
ウンス朗読の「アナウンス部会」で
す。部会ごとに分かれて週1〜2
回活動しています。

入學式の司会も務めていましたね。
松本：はい、発声の練習や原稿を
読む練習をしている「アナウンス
部会」が担当しています。

政池：学校行事だけでなく、
サークルの発表会の司会をするこ
ともあるんですよ。

松本：あとは年に一度、NHK全
国大学放送コンテストというアナ
ウンスの大会があって、何人かの
部員が出演しています。

ラジオ放送も行います。

「Dir皿(ディレサ皿部会)」と
は、聞き慣れない名称ですが、ど
のような由来があるんですか？

松本：「Dir」はディレクターか
ら、「皿」はCDを回す動作より皿
回しから来ていて、DJのことで
す。こういう人たちと一緒に番組
を作っていく部会だということ

名前を付けたんだと思います。
政池：ラジオ番組は「DJはもち
ろりんリスナーも楽しめる」という
理念のもと、部員の誰かがおもし
ろい企画を提案し、それに賛同し
た部員たちで集まって作ってい
ます。

松本：普通のラジオだと企画と出
演と制作とで違う人が行うことが
多いですが、放送研究会では、皆
でござやまぜにやってるんですよ。
おもしろそうですね。例えばどう
いう企画をしてるんですか？

政池：最近、「九大全書」という番
組を始めました。九州大学を目指
している受験生にエールを送った
り、これからの大学生活についての
アドバイスをちょっとしたお得心
報を発信したりしています。

もう一つのラジオドラマというの
はどういうものなんですか？

松本：ラジオドラマは声だけでや
る演劇やドラマのことです。

私も政池さんも高校時代は演劇
部に所属していたんですよ。

政池：演劇だったら表情や身振り
手振りで感情を伝えることができ
るんですね。つまり視覚による情
報が大きいんです。でも、ラジオド
ラマは聴覚からの情報しかないの
で、声だけで感情やキャラクター
を伝えたり、BGMや効果音で場
面設定を伝えたり、いろんな工夫
が必要になってきます。



Focus

番組紹介

1

新入生応援特別企画
「サークルってなんぞや？」

新入生向けのサークル紹介番組。サークルからゲストをお呼びし、活動内容や新歓情報を紹介します。

2

シリーズ企画「九大全書」

受験生や九大学生に向けた番組。九州大学に関する情報をお届けします。紹介したいイベントなどございましたらご連絡ください！全力で宣伝します。

3

ラジオドラマ「僕らの知らない狼さん」

「お前は狼だからな。悪役として、狼らしく生きていけばいいんだ。」様々な物語で「悪役」をつとめる狼に焦点を当てた童話パロディラジオドラマ。



▲「ラジドラ部会」にてラジオドラマの収録の様子。真剣ながらも笑顔が絶えません。



▲ラジオドラマの裏方を担当する部員も楽しそうに活動しています。

Data

九州大学放送研究会

- ◎部員数
36人(男性23人、女性13人)
- ◎活動場所
伊都キャンパス
- ◎活動日
月曜、水曜、金曜
- ◎問い合わせ先
E-mail・kubc.housou@gmail.com
Webサイト・http://kubcradio.web.fc2.com/
Twitter・@kubc_housou



WebサイトやiTunesにて
ラジオ番組を配信中!

この記事は、広報室学生スタッフが制作しました。



<https://www.facebook.com/KyushuUniv.Student>

声だけで伝えるのはなかなか難しいですね。

政池..聴覚だけで伝える分、リスナーが飽きてしまわない工夫も必要です。そのため1本30分程度の短編で作ることが多いです。

松本..一方で、ラジオドラマは効果音一つで場面を変えられるのが強みですね。小道具を使わない分、たくさん場面を設定できます。

ラジオドラマでは脚本も部員が書いているんですか？

政池..そうですね。たいてい脚本を書いた人が監督になってドラマを作っていくんですよ。

松本..私もこの春、「僕らの知らない狼さん」という話の脚本と監督をさせていただきました。

政池..これからWebサイトで配信していく予定なので、ぜひ聞いてみてください！

やりたいことができます。

放送研究会の魅力や、やりがいも教えてください。

松本..先輩から「やりたいことができるサークルだよ」と聞いて入部したんですが、そのとおりでした。ラジオ放送では比較的自由な企画ができますし、自分の好きな部会に所属できますし。

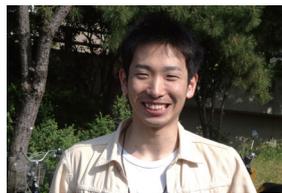
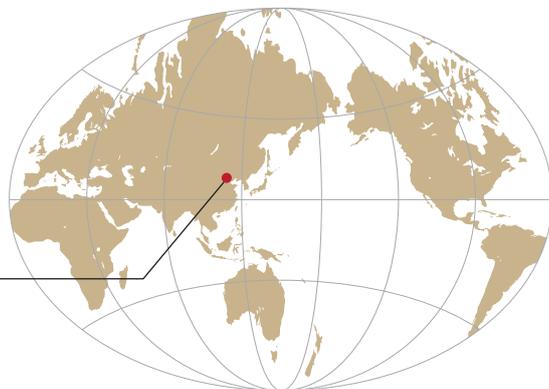
政池..周りの人から「放送研究会の番組を聴きました」と言われるとうれしいですね！

最後に読者のみなさまに向けてメッセージをお願いします。

松本..サークルの活動など、ラジオ番組で紹介したいことがありましたら、連絡をください。

政池..ラジオ番組でこういうことを取り上げて欲しいといった要望も募集しています！

九大生が案内する 世界のキャンパス



留学先大学

北京大学 (中国)

経済学部4年
勝木 豪一 (かつき たけかず)

北京大学では、対外漢語学院と経済学院に半年間ずつ籍を置いて勉強に励みました。

対外漢語学院は、留学生がレベルに応じて少人数で中国語を学ぶコースです。授業内容は、スピーキング、リスニング、作文、文法、読解、発音など多岐にわたり、必修科目と自分の興味のある科目を選択することができます。当初は、自分の中国語能力の低さが原因で、授業についていくのに苦労しましたが、集中的に中国語を学べ

山西省にて



経済学院の授業



北京大学の東南門(左奥が体育館)



る環境に身を置いたことで、学期を終える頃には、かなりの伸びを実感することができました。

経済学院では、公司経済(コーポレートファイナンス)、亚洲经济(アジア経済)、发展经济(開発経済)を受講しました。特に印象に残っているのは、中国各地の農村から北京に出稼ぎに来ている農民工への聞き取り調査です。彼らの反日感情に直に触れたと同時に、中国における貧富の格差に驚愕した経験となりました。また、中国



観光地として有名なキャンパス内にある未名湖

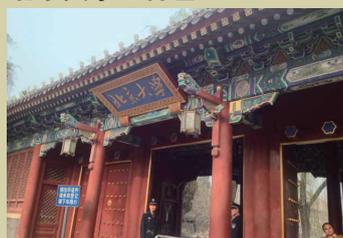
人学生との相互学習(日本語を学ぶ中国人学生とお互いに語学を指導し合うこと)や、中国各地への旅行、サークル活動も良き思い出です。

現地で得られた友達とは、今も連絡を取り合っています。中国の人々は、外見こそ我々日本人とそれほど変わりませんが(私も毎日のように中国人と間違えられました)、考え方や行動はまったく違います。さまざまな場面でカルチャーショックを受け、私の価値観は大きく揺さぶられました。中国は、今や世界の政治・経済の舞台で最も影響力のある新興国と言っても過言ではありません。そのエネルギーを肌で感じたい方には、中国への留学を強くお勧めします。

「九大生のための海外留学情報」

Webサイト <http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/study/>
交換留学についての詳細や、過去の交換留学生による報告書も大学毎にたくさん掲載しています。

北京大学の特色



北京大学の正門

北京大学は、1898年に設立された京師大学堂を前身とする総合大学で、1912年辛亥革命の後、現在の“北京大学”に改められました。権威ある大学と国家が認め、予算の優先配分等の支援が行われる国家重点大学の一つで、中国最高峰の大学でもあります。北京市海淀区(北京市の北西部)に位置し、近隣には頤和園や圓明園といった史跡があります。また、同じく国家重点大学の清华大学、中国のシリコンバ

レーと呼ばれる中関村、五道口と呼ばれる韓国系繁華街も隣接しています。広大なキャンパス内には、アジアの大学では最大規模の図書館、演劇やコンサートの公演、映画の上映が行われる劇場、オリンピック競技が行われた体育館、未名湖という湖、10を超える食堂があり、志の高い学生が一生懸命に勉強しています。北京市内では「北大(べいだあ)」として親しまれ、世界各国から多くの留学生が集まっています。

平成26年春の叙勲、文部科学大臣表彰、 ロレアル-ユネスコ女性科学賞国際奨学金受賞のお知らせ

平成26年春の叙勲

瑞宝中綬章

山添 昇

九州大学名誉教授(総理工)
元総合理工学研究院院長

馬場 典明

九州大学名誉教授(文)

根本 道也

九州大学名誉教授(言文)

古賀 利郎

九州大学名誉教授(工)

三石 信雄

九州大学名誉教授(工)

掛下 伸一

九州芸術工科大学
名誉教授

科学技術分野の文部科学大臣表彰

平成26年度科学技術分野の文部科学大臣表彰「科学技術賞」及び「若手科学者賞」を本学教員が受賞しました。科学技術分野の文部科学大臣表彰は、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者について、その功績を讃えることにより、科学技術に携わる者の意欲の向上を図り、我が国の科学技術水準の向上に寄与することを目的として行われているものです。

科学技術賞【研究部門】

落合啓之

マスプロコア・インダストリ研究所 教授

CG映像制作のための演出技術の数理モデルに関する研究

※研究グループでの受賞

若手科学者賞

池ノ内 順一

理学研究院 准教授

上皮細胞の細胞膜構造形成に関する研究

山田 鉄兵

工学研究院 准教授

配位高分子の内空間を用いたプロトン伝導体の研究

祢垣 淳太郎

理学研究院 助教

植物における気孔の環境応答及び形成メカニズムの研究

山西 芳裕

高等研究院 准教授

情報科学的手法による分子間相互作用ネットワーク予測の研究

井藤 彰

工学研究院 准教授

磁性ナノ粒子を用いた医療技術に関する研究

古山 通久

稲盛フロンティア研究センター 教授

機能性多孔体のマルチレベル計算手法に関する研究

ロレアル-ユネスコ女性科学賞 国際奨学金

本学の女性研究者が日本人初となる「ロレアル-ユネスコ女性科学賞 国際奨学金」を受賞しました。同奨学金は、世界最大の化粧品会社ロレアルグループ(本社:フランス・パリ)とユネスコ(本部:フランス・パリ)が、将来が期待される生命科学分野の博士課程や博士研究員レベルの若手女性研究者を支援するため、2000年から毎年15名の若手女性研究者が選定されています。自国以外の研究機関における研究活動を支援するための奨学金が授与されます。

小澤 未央

医学研究院 学術研究員(環境医学分野 久山町研究室)



ドイツ人工知能研究所
所長

平成26年4月21日(月)、ドイツ人工知能研究所のアン
ドレアス・デンゲル所長が、有川総長、藤木理事・副学長
を表敬訪問されました。

本学システム情報科学研究院との共同研究実施にか
かる打合せのため、来学されたものです。

表敬には、システム情報科学研究院の谷口教授、内田
教授も同席し、ドイツ人工知能研究所と本学との今後の
研究交流等について活発な意見交換がなされました。



中央がデンゲル所長

日本人学生を対象に、グローバル人材の育成を目指します

Close up
クローズアップ...

1 九州大学法学部 GVプログラム設置

九州大学法学部は、平成27年度から、日本人学生を対象に、グローバル人材の育成を目指して、英語による教育を重視した学士・修士一貫国際ビジネス法プログラム「GV (Global Advantage) プログラム」を設置します。

GVプログラムは、法学部プロセス修士課程（LL.M.）の実質5年間で、「グローバル・ローヤー」を育成します。ここでいう「グローバル・ローヤー」とは、「各国の法律家に互して、英語で交渉し、契約書を起草し、各国での法適合性を調査し、国際ルールの策定に参加するなど、国際ビジネスの最先端で活躍する人材」です。

2 グローバル・ローヤー 育成が望まれる 社会的背景

1980年代、多くの日本企業がその卓越した技術力を武器に海外に進出しました。海外拠点の設立や外国での企業活動の最前線で活躍したジャパニーズ・ビジネスマン、なかでも契約締結等企業法務の中心を担ってきたのは、「つぶしのきく」法学部出身者で企業派遣により海外の大学に留学してLL.M.（法学修士）などを取得した人材でした。彼らのカウンタパートは、弁護士資格を持つ外国人法律家で、中には修士や博士の学位を持ち高い専門性を備えた人々も少なくありません。これに対して、弁護士の人口に占める割合が圧倒的に少ない日本では（アメリカでは約250人に1人が弁護士、ドイツでは545人に1人なのに対し、日本は約4110人に1人、弁護士資格を持たない人材が、実質的にローヤーとしての役割を担ってきたわけです。

法試験合格者数を増加させる政策が取られ、その中心的役割を果たす法科大学院制度が平成16年に創設されました。しかしながら、新司法試験合格者の多くは従来の弁護士業務に従事し、新たな分野に法律家として進出する人は一部に過ぎません。日本における企業法務は、相変わらず、その大部分が弁護士資格を持たない人材によって担われています。

他方、少子高齢化により国内市場が縮小する日本では、大企業のみならず中小企業や地方公共団体など、グローバル化の波があらゆる分野に押し寄せ、グローバルに活躍できるローヤーはかつて無いほど、囑望されています。新興国の追い上げにより、多くの日本企業が技術力の絶対的優位を保てなくなってきた。現在、例えば知的財産に関する法的な自己防衛は必須です。海外進出や国際取引の際、相手国の法に照らして適法かどうか、調査する必要もあるでしょう。さら

に、英語で論理的に主張し、相手を説得してwin-winの解決を引き出し、契約書などの文書にまとめる仕事は、まさしくグローバル・ローヤーの仕事です。

3 従来の法学部教育と人材ニーズの変化

これに対して、日本の大学の法学部では、法律の専門家ではなくいわゆる「つぶしのきく」



学部生とLL.M.学生による文化財特別ワークショップ

GVプログラム イメージ図

アドミッション・ポリシー

多様なバックグラウンドを背景とした国際的な環境において、才能を開花させ得る、卓越した知的能力を有する学生を受け入れる。

カリキュラム・ポリシー

法学・政治学分野における専門家を育成しつつ、自立的、創造的かつ柔軟な問題解決の技術を教授するとともに、国際感覚を身につけさせる。

ディプロマ・ポリシー

以下を身につけた者に学士・修士(法学)の学位を授与する。

1. 専門家としてのスキル
2. 問題解決スキル
3. 地域・国内・国際社会のリーダーとして貢献するスキル
4. グローバル社会において活躍するための国際感覚

ティーチング・アソシエイツ

一貫した少人数による
チュートリアル

世界展開力強化事業

1~2週間の
短期留学

学生交流協定

6ヶ月以上の
セメスター留学

TOEFL 500
程度

TOEFL 540

TOEFL 580

TOEFL 600+

基幹教育

学部専攻教育

LL.M.

OA入試

英語による
・ディプロマ科目
・フロンティア科目
・学術英語ゼミ

法学の基礎を
母語でしっかりと

LL.M.との
相互乗り入れ授業

高度な専門性に
基づく授業・指導

就職支援・
ネットワーク形成

法学部国際化プロジェクト

LL.M. の実績

ジェネラリストを養成してきま
した。法学部の専攻教育を通じ
て、法の基本的枠組みを理解し、
論理的思考を身につけた法学部
卒業生は、どの部署でもその能
力を発揮できると社会に認識さ
れてきたのです。専門性は、就職
後オン・ザ・ジョブ・トレーニング
や、留学に派遣されることに
より身につけるものとされ、法
学部ではその基礎を教授するこ
とが求められてきました。

しかしながら、経済の長期的
低迷を機に、企業は即戦力を求
め、また社会は職業に直結する
教育を求めるようになりまし
た。かつては、採用後の教育が重
視されてきましたが、教育にか
かる経済的・時間的コストを縮
小する必要が企業等に生じ、採
用時点で既に一定の専門性を身
につけた人材が望まれるようにな
ったのです。また、就職難など
の影響で、とりわけ保護者が、就
職の確実な学びを子どもに求
め、キャリア教育の低年齢化も
進んでいます。法学部でも明確
な「職業イメージ」に結びつく教
育が求められていると言えま
す。これに応えるのが、GVプロ
グラムなのです。



Special Lecture(LL.M.)

平成6年、九州大学は、英語の
みで修士(法学)の学位を取得す
ることのできるLL.M.プロ
グラムを日本で初めて開設しま
した。以来、世界約50の国と地域
から400名を超える卒業生を
輩出し、欧米のトップ大学の
LL.M.に匹敵する実績を挙
げてきました。本学のような多
様性に富んだ学生が英語で法学
を学ぶ環境は、国内には他に
なく、海外でも高く評価されてい

4 LL.M. 英語による修士(法学) プログラム



2014 Annual Law Conference (LL.M.,LL.D.)

ます。卒業生の中には、LL.M.で獲得した国際経済ビジネス法の専門能力を生かして、国際的弁護士事務所、各国官公庁、研究機関等の第一線で活躍する人たちも多くなります。



LL.M.等修了式

ただ、LL.M.在学生の多くが既に法曹資格を有する法実務家で、プログラム自体、すでに高いレベルの法知識を身につけていることが前提となっていること、全ての授業が英語で行われ修士論文も英語で執筆しなければならぬことなどから、日本人にとっては大変ハードルが高いことも確かです。このため、日本人修了生が1名、社会人入学で現在在籍している学生が1名という寂しさでした。

5 A.O入試の復活

そこで、学部入試から改革し、LL.M.に進学するだけの力を持った学生を育成することになりました。

九州大学法学部は、平成12年、全国の国立大学に先駆けてA.O入試を導入しましたが、導入から9年後の平成21年、当初の導入目的であった「ユニークな人材の獲得」が、受験対策の徹底等によって困難になり、他の選抜方法との間に有意な差が見いだされなくなつたため、これを廃止しました。しかし、これによって、法学部は「ユニークな人材の獲得」をあき

AO 特別入試準備状況



らめた訳ではありません。その後も、現在の社会で囑望される「ユニークな人材」の定義や、そのような人材を育てるための条件について議論を重ね、その結果、「法的専門性を持つグローバル人材を目標とした、新たな教育プログラムを構想するに至つたのです。一般に、A.O入試は一般入試よ

りもハードルが低いイメージがあるようですが、法学部が平成27年度から導入するA.O入試は、一般入試に比べてむしろ狭き門と言えます。募集定員は10名、英語能力試験のスコアや大学入試センター試験も課した上で、独自の英語学力試験と日英2力国語での面接を行うからです。本来A.O入試は、アドミッションポリシーを大学が高校に丁寧に説明し、その理念に合った受験生を見出し、個性を見極めて選抜するものですが、今回復活させるA.O入試はこのような本来の姿に立ち返つたものとなっています。GVプログラムが求める10名は、グローバル・ローヤーにふさわしい志と資質を持った学生です。



マレーシアでのワークショップ(大学の世界展開力強化事業)

6 カリキュラム概要とチュートリアル

GVプログラムには、プログラム独自の必修科目はありません。通常の法学部教育、つまり、日本語による日本法の学修や基本的な法的思考の習得もしっかりと行います。これを欠くと、法律家としての基礎を身につけることができず、LL.M.の英語環境で各国の法律家と十分な議論を展開することができません。ローヤーとしての「つぶし」が効かないこととなります。その一方で、基幹教育や法学部教育で開講されている、英語力や国際性を養う科目を選択し、プラスアルファの専門能力を身につけられるようになります。

また、「大学の世界展開力強化事業『スパイラル型協働教育モデル：リーガルマインドによる普遍性と多様性の均衡を目指して』」による短期派遣を皮切りに、より長期の交換留学やインターシップを経験し、「留学はあたりまえ」という雰囲気を作ります。

以上の教育プログラムを確実に実現するため、専任のチュー

九州大学法学部GVプログラム設置

アユタヤ(タイ)にて
(大学の世界展開力強化事業)



クアラルンプール(マレーシア)にて(大学の世界展開力強化事業)

ターの下、一人ひとりの個性に応じた履修プランを策定し、自分で短期・長期の学習計画をたて、教員との緊密なフィードバックを重ねながら、同じ夢を持った仲間とお互いを高め合い、学び合う、少数指導環境を用意します。

最後の1年間のLL.M.では、より高度な国際経済ビジネス法に関する知識を、将来のグローバル・エリートと机をならべ、磨いて行きます。

こうして得た法的専門能力と、LL.M.の学位を持って、GVプログラムの修了生は、国内外を問わず、国際的な法実務

の第一線で活躍することが期待されます。(詳細は、下記のWebサイトへ)

7 GVプログラム紹介イベント

平成26年3月16日(日)に、このGVプログラムの紹介イベントを、本学箱崎キャンパスで開催しました。イベントでは、高校英語教育の専門家(福岡女子短期大学 石黒文雅教授)による講演、GVプログラム・LL.M.コースの紹介、英語による法

学入門の模擬授業やLL.M.の体験授業、入試模擬問題の紹介と解説のほか、LL.M.のOB、OGとの懇談会や個別質問会を行いました。47名の高校生、保護者、高校教員がこのイベントに参加し、魅力ある進路の選択肢として、強い興味を持って聴講していました。

平成26年8月3日(日)に開催するオープン・キャンパスでも、一部同様の紹介イベントを行う予定です。

現在、「グローバル」を謳う入試、

コースや大学が、全国的に増えています。また、若年者人口の減少や労働市場の変化に伴い、学生が大学で何を学び、何を身につけるのが、改めて厳しく問われています。

この状況にあつて、九州大学法学部は、今後も有意義で特色ある法学教育のあり方、学生一人ひとりが自己実現を果たし、社会が真に求める人材を輩出する高等教育のあり方を、世界的・長期的視野に立って模索・実現していきます。



英語による法学入門を体験する高校生(GVプログラム紹介イベント)



基調講演「今、何を武器に世界へ出ていべきか」(GVプログラム紹介イベント)

「国際的な視点を持ったアグリバイオリナーの育成」プログラムの取組

Close
アップ
クローズアップ...

コスタリカでの派遣プログラム。
農家にてバイオダイジェスター設置を行った。



英語力強化プログラム授業風景

「国際的な視点を持ったアグリバイオリナーの育成」プログラムは、文部科学省の「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援事業」（採択時は「グローバル人材育成推進事業」として平成24年度に採択されたものです。この教育国際化プロジェクトは、農学部生を対象として、次世代型農学「アグリバイオ」を武器に世界で活躍し、社会を牽引する人材の育成を目標としています。平成25年度は、主に以下の3つの取組を行いました。

1 英語力強化プログラム

伊都及び箱崎キャンパスで実施した英語力強化プログラムを110名が受講し、英語力の向上を目指しました。一般的に、高校までの教育は、「読み」「書き」に偏重していると言われていますが、本学農学部生も例外ではありません。そこで、英語力強化プログラムでは、「聞く」「話す」の訓練を集中的に行い、その結

果、プログラム受講後に実施したTOEFL模擬試験では、スコア80を達成した学生が、4名から7名となり、全体の平均スコアも向上しました。特に「聞く」に関する能力の伸びは顕著でした。本年度は、日本文化や科学英語を学ぶ授業なども加え、更魅力的なプログラムを実施していきます。

2 海外派遣プログラム

アジアでは、ベトナムのハノイ農業大学とタイのキングモンクット工科大学トンブリ、オセアニアでは、オーストラリアのニューサウスウェールズ大学、中米ではコスタリカにあるジョージア大学コスタリカキャンパス、北米では、カリフォルニア州にあるサンノゼ州立大学、カリフォルニア大学アービス校に計79名の学生を派遣しました。各プログラムには、農学を取り巻く地域的な特色を盛り込みました。例えば、ジョージア大学

コスタリカキャンパスで実施したプログラム（2月25日～3月25日）には5名の学生が参加し、広大な自然に囲まれたキャンパスで、昆虫採集、標本作成、森林調査、バードウォッチング、蝶の生息数調査などのラボワークに取り組みました。コスタリカはエコツーリズムの先進国であり、学生たちはこの他にも、薬効植物観察、乳搾り、コーヒー農園訪問、カーボンオフセットワーク、バイオダイジェスター設置、モンテヴェルデ雲霧林ハイイク、農場訪問など、様々な学内外アクティビティを経験しました。

3 農学部国際コースと
のクラス共有

農学部国際コース（グローバル30プロジェクトで開設した英語による授業のみで学位が取得できるコース）の基礎科目を海外からの留学生とともに受講し、日本語の対応科目と単位互換する「クラス共有」のシステムを始動し、

聴講も含め延べ4名が受講しました。受講には、TOEFLスコア80をクリアすることが条件です。受講者からは、農学関連の英語表現を実践的に学ぶことができたとの声がありました。平成26年度には、さらに共有できる英語講義を拡充していきます。

グローバル人材育成推進事業を開始して1年半が経過しました。研修や英語力強化プログラムを経験した学生から、本格的に海外に出て勉学や研究を進めたいという声もあがってくるようになってきました。本年度は、農学部オープンプロブレムスタディープログラムと共同で香港城市大学の学生達を農学部へ受け入れる予定にしており、本事業を派遣のみならず、双方向的なプログラムへと進める計画です。

※大学院生物資源環境科学府の副専攻の中で開講される講義科目の他、農学部生向けの海外派遣プログラム等を提供している。

椎木講堂こけら落とし演奏会を挙



九州交響楽団による演奏の様子



音楽に聴き入る方々

椎木正和様(三洋信販株式会社創業者)からのご寄附により本年2月に伊都キャンパスセンターゾーンに完成した「椎木講堂」。

平成26年4月26日(土)に、同講堂のこけら落とし公演として、音楽監督である小泉和裕氏の指揮による九州交響楽団の演奏会を挙行しました。

ワーグナー、チャイコフスキー、ベートーヴェンなどの名曲が演奏され、卒業生、地域の小・中・高校等の音楽サークル関係者など、当日集まった約1500名の聴衆が素晴らしい演奏を楽しみ、椎木講堂ホールの優れた音響性能を満喫していました。

平成26年度開学記念行事を開催

九州大学は、5月11日を「九州大学記念日」とし、例年、開学記念行事を開催しています。今年4月26日(土)に、伊都キャンパスのカーボンニュートラル・エネルギー国際研究所ホールで開学記念式典を挙行しました。

開学記念式典では、有川総長から九州大学の現状や最近の取組などについて報告があっ

た後、九州大学に多大な貢献をいただいた方への感謝状贈呈及び名誉教授称号記授与が行われました。

続く講演会では、河野俊行法学研究院主幹教授から「世界遺産条約を通してみる国際法と文化遺産」と題した講演が行われ、約250名の参加者が興味深い話に聞き入っていました。



感謝状贈呈の様子



河野主幹教授による講演



**本学学生が
「せんだいデザインリーグ2014卒業設計日本一決定戦」で
「日本二」と「日本三」を受賞**

平成26年3月9日(日)に東北大学百年記念会館川内萩ホールで公開審査が行われた「せんだいデザインリーグ2014卒業設計日本一決定戦」において、芸術工学部環境設計学科の岡田翔太郎さん(作品名:「でか山」)が

最優秀賞にあたる「日本一」を、同じく市古慧さん(作品名:「界限をたどるトンネル駅」が「日本三」を受賞しました。

「せんだいデザインリーグ卒業設計日本一決定戦」は、せんだいメディアアテークと仙台建築都市学生会議の共同主催で企画され、全国から応募された学生の卒業設計を一堂に集め、公開審

査によって日本一を決めるイベントです。卒業設計コンクールとしては最も権威があり、審査員も毎年第一線の建築家や大学教員などから選ばれます。

今年で12回目の開催となる今回は、550を超える作品の中から、本学の学生による2作品が堂々の受賞となり、本学の芸術工学部環境設計学科が全国の建築設計系のトップランナーであることを証明するものとなりました。

なお、3月9日(日)〜3月16日(日)まで、せんだいメディアアテーク(宮城県仙台市)で作品展示会が開催されました。



岡田 翔太郎さんの作品「でか山」



市古 慧さんの作品
「界限をたどるトンネル駅」



福岡演習林内の珪化木(けいかぼく)群が県指定天然記念物に指定

平成26年3月14日(金)、農学部附属演習林(福岡県糟屋郡篠栗町)内の珪化木(けいかぼく)群が、福岡県指定天然記念物に指定されました。

珪化木とは、土砂に埋もれた木が、地

下水等の二酸化ケイ素(ケイ酸)によって化石化したものです。このたび指定された珪化木群は、約4千万年前の火砕流により絶滅したヒノキ科の樹木が埋没してできたものとみられ、多数の

個体が直立した状態で存在する貴重な化石林です。なお、学外の方でも福岡演習林内の散策及び珪化木群の見学をいただけます。(問い合わせ先) 福岡演習林総務係 TEL: 0929483101



**伊都キャンパス連絡橋
「九大ゲートブリッジ」が完成**

伊都キャンパスのセンター2号館と新設されたセンター3号館(基幹教育院棟)を結ぶ連絡橋「九大ゲートブリッジ」が完成し、平成26年3月16日(日)に開通式および渡り初めを開催しました。

九大ゲートブリッジは、学園通り線をまたぐ、長さ59.5mの橋で、「大学の東西を結ぶだけでなく、九州大学全体のゲート性を有する大学の玄関としてふさわしい施設」のコンセプトをもとに設計され、約1年をかけて完成しました。

開通式では、有川総長からの挨拶の後、一般公募で決定した愛称(九大ゲートブリッジ)の発表があり、命名者の山村啓太様、西尾淳一様に感謝状が贈呈されました。

続いて、テープカットの後、福岡市西区、糸島市から参加いただいた3組の親子三代ご家族を先頭に渡り初めを行い、九大ゲートブリッジの開通を祝いました。九大ゲートブリッジは学外の方もご利用できますが、利用時間は、土・日・祝日を除く、平日の7時〜21時となっています。

開通した九大ゲートブリッジ

渡り初めの様子



能楽師・公益社団法人日本芸能実演家団体協議会会長 野村萬氏（人間国宝）が来学

平成26年3月24日（月）、能楽師・公益社団法人日本芸能実演家団体協議会会長であり人間国宝（重要無形文化財保持者（各個認定））の野村萬氏が来学されました。

野村氏は、九州大学大学院芸術工学府ホールマネジメントエンジニア（EMM）養成講座特別講義の講師として大橋キャンパスにて講義を行い、伝統芸能について熱く語る姿に受講生は引き込まれました。

国の文化政策全般や次世代への伝統芸能提供方法などについて活発な質疑応答が交わされ、予定時間を超えてなお、熱のこもった野村氏の語り口に、貴重な経験ができたと話す受講生もいました。

なお、講義に先立って、箱崎キャンパスの特別応接室にて有川総長と懇談を行いました。懇談では、文化芸術振興に関する話題や、伝統芸能と人材育成の関わり等について意見交換を行いました。



総長との懇談時、関係者による記念撮影（右から3番目が野村氏）

※九州大学大学院芸術工学府ホールマネジメントエンジニア（EMM）養成講座とは
平成25年度に九州大学大学院芸術工学府において文化施設や文化芸術振興分野で働く社会人を対象として開講した講座で、文化庁の「平成25年度大学を活用した文化芸術推進事業」に採択されました。特別講義は本講座内容の一部として実施しているものです。



講義中の野村氏の様子

西日本シティ銀行と 組織対応型連携協定を締結

本学と西日本シティ銀行は、平成26年3月28日（金）に組織対応型連携協定を締結しました。今回の協定締結は、本学の知見や研究成果と、西日本シティ銀行が有する幅広いネットワーク、金融・経済に関するノウハウとを融合させ、（1）地域産業の事業力強化と大学の学術研究の活性化、（2）大学研究成果の事業化促進及び大学発ベンチャーの支援、

（3）人材交流を推進することにより、地域の活性に繋がりたいという双方の考えが一致したことによるものです。

調印式には、西日本シティ銀行から久保田頭取、磯山副頭取、岡村専務執行役員が、本学からは有川総長、安浦理事・副学長、古川産学官連携本部副本部長が出席しました。

協定締結後、久保田頭取が「地域の発展にはアカデミズムの水準向上が不可欠。九州大学との連携により、地域産業の様々な分野で高いレベルの研究・技術が活かされる」と語られ、有川総長が「西日本シティ銀行が有するネットワークを利用することにより、大学ニーズと企業ニーズのマッチング機会が創り出され、個々の企業との協力体制だけでは得られない総合的な連携が可能になると述べました。



協定書を取り交わす久保田頭取（左）と有川総長

今回の協定を契機に、本学と西日本シティ銀行は、様々な分野で地域への知的貢献に取り組み、より良い協力関係を発展させていきます。



福岡演習林で研究紹介及びサクラ見学会を開催

平成26年4月3日(木)、農学部附属演習林(福岡県糟屋郡篠栗町)において、本学演習林研究紹介及びサクラ見学会を開催しました。この研究紹介およびサクラ見学会は、日頃から本学演習林の教育・研究へのご理解、ご支援をいただいている地域の皆さんに演習林の活動状況を幅広く知っていただくために開催しているもので、演習林が所在する篠栗町や久山町の関係者と、有川総長をはじめとする本学関係者合わせて約70名が参加しました。

参加者は、平成24年の演習林創設百周年を機に植え替えられた若いサクラ並木を大槻演習林長から説明を受けながら見学しました。その後、管理棟において各研究室の研究内容や研究成果をパネル展示で紹介しました。引き続き行った懇親会では、林内で採れたタケノコやシイタケのほか、演習林が所在する福岡、宮崎(椎葉村)、北海道(足寄町)の名産物の料理が並ぶなかで、参加者は各々、旬の味覚に舌鼓を打ちつつ、篠栗町、久山町ともに町の大半を占める山林の活用、地域の発展や活性化並びに本学の教育・研究・地域貢献に対して活発な意見交換が行われました。

参加者は、平成24年の演習林創設百周年を機に植え替えられた若いサクラ並木を大槻演習林長から説明を受けながら見学しました。その後、管理棟において各研究室の研究内容や研究成果をパネル展示で紹介しました。引き続き行った懇親会では、林内で採れたタケノコやシイタケのほか、演習林が所在



懇親会での地元料理



研究紹介の様子



京セラ株式会社様に感謝状を贈呈

平成26年4月7日(月)、本学の発展に多大なるご貢献をいただいた京セラ株式会社様への感謝状贈呈式を執り行いました。京セラ株式会社様におかれては、本学稲盛フロンティア研究センターの研究活動に深い理解を示され、21世紀の人類に共通する課題に対して学際的な研究の発展に多大なるご貢献をいただいた京セラ株式会社様への感謝状贈呈式を執り行いました。京セラ株式会社様におかれては、本学稲盛フロンティア研究センターの研究活動に深い理解を示され、21世紀の人類に共通する課題に対して学際的な研究

に挑戦する同センターの運営費として多額の寄附を続けられ、本学のさらなる発展にご貢献いただいたものです。

感謝状贈呈式は、椎木講堂4階の特別応接室にて行われ、有川総長から、久芳徹夫京セラ株式会社代表取締役会長に感謝状が贈呈されました。



九州大学工学系総合研究棟の開所式を挙

平成26年4月14日(月)、伊都キャンパスウエストゾーンにて工学系総合研究棟の開所式を執り行いました。

同研究棟は、工学系領域において、組織の枠を越えて学内外の広範な研究者の参加による学際的、先端的、独創的な研究・教育に関する取組を効率的かつ円滑に進めるための拠点形成の場として研究・教育に使用することを目的としており、鉄筋コンクリート造3階建て、延べ床面積1961㎡の建物です。1、2階は部局管理運用部分で工学研究院が管理運

用3階は全学的な公募により使用者が決定され、全学的な見地からの戦略的研究が実践される全学コラボゾーンとなっています。

開所式は、役員・部局長等の学内関係者や施工業者の約40名の参加を得て開催され、山田工学研究院長、有川総長の挨拶に始まり、宮浦施設部長の建物概要説明の後、関係者によるテープカットが行われ、同研究棟の開所を盛大に祝福しました。

引き続き建物見学会も開催され、参加者は新しい建物を興味深く見学していました。

同研究棟は、工学系領域において、組織の枠を越えて学内外の広範な研究者の参加による学際的、先端的、独創的な研究・教育に関する取組を効率的かつ円滑に進めるための拠点形成の場として研究・教育に使用することを目的としており、鉄筋コンクリート造3階建て、延べ床面積1961㎡の建物です。1、2階は部局管理運用部分で工学研究院が管理運

用3階は全学的な公募により使用者が決定され、全学的な見地からの戦略的研究が実践される全学コラボゾーンとなっています。

開所式は、役員・部局長等の学内関係者や施工業者の約40名の参加を得て開催され、山田工学研究院長、有川総長の挨拶に始まり、宮浦施設部長の建物概要説明の後、関係者によるテープカットが行われ、同研究棟の開所を盛大に祝福しました。

引き続き建物見学会も開催され、参加者は新しい建物を興味深く見学していました。



テープカットの様子



有川総長から感謝状を贈呈された久芳京セラ(株)代表取締役会長(右)

伊都キャンパスにSALCがオープン

平成26年4月17日(木)、伊都キャンパスセンター2号館の喫煙天空広場内に、SALC (Self-Access Learning Center) がオープンし、同日オープニングセレモニーが行われました。

SALCは、平成26年度から開始した基幹教育カリキュラムの新学術英語カリキュラムO-LEAP (Kyushu University Learning English for Academic Purposes Program) にあつて、

・学生一人一人の英語力や学習ニーズに応じた学習支援を提供する場として

・留学生と日本人学生が、学内で異文化交流を深めていくためのコモンエリアとして

教室の中だけでは得ることのできない「学びの場」を提供します。

オープニングセレモニーは、工学部エネルギー科学科2年の齊藤和平さんと工学部物質科学工学科2年の古賀美穂さんの司会のもと、丸野俊一基幹教育院長、保田幸子言語文化研究院准教授 (SALCディレクター) から挨拶があり、関係者による

テープカット、記念撮影が行われました。

SALCでは、多様な分野を専攻する学生の様々なニーズに応えるために、専門スタッフ (ラーニング・アドバイザー)、大学院生サポーター (ラーニング・アシスタント) 等による英語学習相談、英会話練習、TOPII等の国際検定試験対策、留学相談など、個人のニーズに応じた英語学習支援を提供していきます。

O-LEAPの「LEAP」には、九州大学の英語教育の新たな「飛躍」、そしてグローバルリーダーへの本学学生の「飛躍」への願いが込められています。英語の力を伸ばし、多くの学生が世界に飛躍 (LEAP) することが期待されます。



セレモニー司会の齊藤さんと古賀さん



オープンしたSALCの様子

有川総長が九州六大学野球連盟会長に就任

昭和32年に発足し、今年で57年目を迎える伝統ある九州六大学野球連盟会長に、今年4月、有川総長が就任しました。本学総長が会長に選出されたのは平成元年以来25年ぶりとなります。

就任にあたり、福岡ヤフオク! ドームで4月19日(土)に行われた九州六大学野球連盟、福岡六大学野球連盟合同の開幕式で、有川総長は、「野球部で培った高い人間力を活かして、社会の様々な分野で活躍している先輩たちが数多くいる。」と述べ、歴史と実績のある両連盟を代表する挨拶としました。開幕戦を控えた両連盟に所属する12大学の硬式野球部部員も、神秘的な面持ちで聞き入っていました。

両連盟は、ここ20年の間に、明治神宮野球大会で優勝2回、全日本大学野球選手権で準優勝1回を誇り、昨年も2名がプロ野球に入団するなど、数多くのプロ野球や社会人野球の選手を輩出し、全国的にもレベルの高いリーグとして知られています。本学硬式野球部は近年、最優

秀防御率賞や日本学生野球協会表彰選手を出すなど、個人レベルでの活躍は見られますが、チームとしては下位の成績が続くなど、低迷しています。総長の会長就任を機に、九州大学硬式野球部も上位への進出、あるいは初の飛躍が期待されます。



挨拶を述べる有川総長



開幕式で行進する九州大学硬式野球部



NHK・Eテレ「すイエんサー」に
山田工学部長と工学部・工学府学生が出演、
「ペーパーダウンヒル対決」で勝利!

NHK・Eテレの科学エンターテイメント番組「すイエんサー」の人気企画「知力の格闘技・挑戦状シリーズ」に、山田工学部長と工学部・工学府の学生が出演し、その模様が平成26年4月29日(火)と、5月6日(火)の2回にわたり全国放送されました。

時間の長さを競うものです。早く転がりすぎず、しかし、止まってしまつと「記録なし」となるため、バランスを計算して、ちょうどよい構造物を作れるかが鍵となる難競技でした。結果は、知力を駆使して競技を進めた九大チームが見事に勝利を収めました。

番組では、2月に伊都キャンパスに完成したばかりの椎木講堂で、九大チームと同シリーズで東京大学・京都大学・北海道大学・東北大学チームに勝利してきた「すイエんサーガールズ」が、「ペーパーダウンヒル対決」を行いました。この競技は、A4の紙で構造物を作り、コースとなる150センチメートルの坂道を転がし、坂の上から床に落ちるまで



競技前に意気込む九大チーム(左から原さん、山内さん、トウさん、小野さん)



「九州大学まなびたい」が博多どんたくパレードに参加



「集まれ!いもQ」をテーマにパレードを企画・運営しました。「いもQ」は、多少不器用なところはあつても、勉強、サークル活動、ボランティア・社会活動等それぞれの関心事に懸命に取り組む九大生の姿を表しています。

どんたく当日は実行委員らの持つ横断幕を先頭に、応援団、チアリーダーがパレードを盛り上げ、続く学生、留

平成26年5月3日(土・祝)、本学の学生や教職員ら総勢約200名による「九州大学まなびたい」が、福岡市民の伝統的な祭りである「博多どんたく港まつり」のパレードに参加しました。

学生及び教職員の隊列が、揃いのオリジナル「いもQ」法被を身に纏い、スティックバルーンを手に本学学生歌等に合わせ踊りを披露しました。最後方では松原寮生を中心とする学生と卒業生が平成21年に閉寮した田島寮伝統の樽神輿を担ぎ、勇壮な姿で福岡市中心部を駆け抜けま



した。約30分間のパレードは、天候にも恵まれ、沿道から盛んに拍手や声援が送られる中、大いに盛り上がりました。また、翌4日(日・祝)には芸術工学府の学生らで構成する「九州大学大橋キャンパス芸工祭どんたく隊」がパレードに参加し、芸工祭をPRしました。

九州大学基金 13

—未来を切り拓くリーダーの育成—



寄附者ご芳名

九州大学基金の趣旨にご賛同いただき、多大なご支援を賜り、誠にありがとうございます。

本号では、2014年2月8日から4月18日までに寄附申し込みいただいた皆様の

ご芳名(五十音順)を掲載させていただきます。今後とも九州大学基金をよろしくお願い申し上げます。

企業・団体等

医療法人 田中 宏明
内科胃腸科クリニック 様

TOTO株式会社 様

医療法人

西原内科消化器科クリニック様

福岡赤十字病院 様

独立行政法人国立病院機構

福岡東医療センター 様

宮崎県在住

土木・水工土木 卒業生一同様

山下町クリニック 様

公益財団法人 吉田育英会 様

医療法人 羅寿久会

浅木病院 様

医療法人

和田整形外科医院 様

外匿名希望5企業等

(計15企業等)

個人

青木 正範 様

赤松 健 様

阿部 俊大 様

荒川 雅 様

家人 里志 様

板村 寛司 様

伊藤 昌司 様

猪山 英徳 様

上岡 玲子 様

大島 忠郁 様

大淵 達郎 様

岡山 昌弘 様

荊尾 嘉一 様

金出 英夫 様

金子 邦之 様

萱島 孝二 様

河田 溥 様

河野 正輝 様

菊川 律子 様

北田 輝彦 様

黒岩 俊郎 様

小谷 穰治 様

小寺 隆 様

坂井 暉 様

坂口 賢史 様

坂口 光一 様

神宮司 誠也 様

末弘 司 様

清田 正司 様

清野 聡子 様

曾我部 幸雄 様

平 幸治 様

竹下 富三 様

田上 博隆 様

當眞 千賀子 様

豊田 文俊 様

中川 悟 様

中島 照子 様

中野 光男 様

中道 保信 様

中村 美和子 様

新原 健生 様

橋爪 誠 様

羽田野 節夫 様

早田 武 様

原口 勝 様

樋口 一也 様

日隈 康喜 様

藤田 修一 様

藤野 満夫 様

藤淵 俊王 様

古森 美津代 様

松井 敬介 様

松尾 圭介 様

松口 宰邦 様

村上 錦吉 様

目野 宏 様

本山 達男 様

森山 雅文 様

安武 昭典 様

八尋 正信 様

山下 博志 様

吉田 明史 様

吉村 元秀 様

鷺尾 昌一 様

外匿名希望17名

(計83名)

(九大会員)

上田 純也 様

大浦 学 様

永見 和敏 様

前田 彩 様

田上 博隆 様

井無田 敦 様

小山 政人 様

外匿名希望4名

(計11名)

平成26年4月18日現在

九大会員数10894名

(うち57名クレジット
決済による継続的な支援者)

●お問い合わせ

九州大学総務部基金事業課

〒819-0395 福岡市西区元岡744 TEL.092-802-2150 FAX.092-802-2149

【E-mail】 k-kikin@jimu.kyushu-u.ac.jp 【百周年Webサイト】 http://www.kyushu-u.ac.jp/100th/

【九州大学基金Webサイト】 http://www.kyushu-u.ac.jp/k-kikin/

経済学部同窓会関西支部総会

平成26年2月15日(土)、大阪弥生会館にて、経済学部同窓会関西支部総会が行われ、約50名にご出席いただきました。

第一部の総会は、谷村信彦理事(平成3年卒)の司会進行で始まり、石橋英治支部長(昭和36年卒)が挨拶。引き続き、中野光男事務局長(昭和50年卒)から行事報告、行事計画案、役員人事案の説明と会計報告が行われ、議案はすべて承認されました。

その後、山本健児経済学研究院長、同窓会本部の藤井美男事務局長、総務部基金事業課市山郁生次長からご報告やご説明がありました。

第二部は、和歌山大学経済学部教授の齊藤久美子氏(昭和58年農学部卒、昭和62年経済学修士課程修了)からご講演いただきました。

その後、戦時中の九州大学の状況を紹介した番組のDVDを放映。内田勝敏先輩(昭和22年卒)が番組内で、学徒出陣などについてお話しされていました。

第三部は会場を変え、進行も清丸泰司事務局長代理(平成2年卒)に変わり、懇親会が開宴。棚倉亨先輩(昭和27年卒)による開会のご挨拶、ご来賓の紹介の後、池田弘一

同窓会会長(昭和38年卒)のご発声による乾杯で歓談に移りました。途中、佐野壬彦顧問(昭和38年卒)の指揮のもと、応援歌と学生歌「松原に」を斉唱。最後に、鈴木多加史顧問(昭和33年卒)による万歳三唱で、盛会裡に懇親会を終えました。

経済学部同窓会関西支部副支部長
久保隆一

(昭和49年・経済学部卒)
〈事務局〉中野光男

TEL: 06-6394-1182

E-mail: m-nakano@fujiseihan.co.jp
(富士精版印刷株式会社)



石橋支部長挨拶



全員で学生歌を斉唱

富士通松原会総会

平成26年2月20日(木)、富士通松原会(山本正巳会長・富士通株式会社代表取締役社長・昭和51年工学部卒)の総会・懇親会が行われました。本会は富士通株式会社ならびにその関連会社勤務の九州大学および九州芸術工科大学の卒業生からなる企業内の同窓会であり、今回97名の出席者がありました。

総会は山本会長の挨拶に始まり、新体制紹介、会計報告がなされ、了承されました。総会後の懇親会では、九州大学経営協議会委員でもある加藤公敬副会長(昭和52年・九州芸術工科大学卒)より九州大学の現況が紹介され、出席者全員で九州大学同窓会連合会事務局よりお借りした「九大百年」のDVD映像を視聴し、九州大学の歴史に思いを馳せました。

懇親会の終盤には九州大学オリジナルグッズが当たる大抽選会を行いました。

た。当選者に景品が渡されるたびに出席者からは歓声が上がりました。抽選に外れても一人に一本の九州大学ポールペンが配られ、出席者全員が楽しい時間を過ごしました。

また、九州大学同窓会連合会事務局よりいただいた「九大広報」などの同窓生配布資料に目を通しながら、会社の所属や役職、先輩や後輩といった垣根を越えて九州大学の話に花が咲いていました。

懇親会の最後は出席者全員で学生歌「松原に」を斉唱し、今年度の総会・懇親会は閉会となりました。

富士通松原会事務局

原田剛志

(平成12年・法学部卒)

E-mail: tak-harada@jp.fujitsu.com



山本会長と写真撮影をする出席者



学生歌「松原に」を歌う出席者

在京親和会総会

平成26年3月26日(水)、東京都千代田区の三菱クラブにおいて、在京親和会の平成25年度総会が、14名の先生方、会員86名を交え賑やかに開催されました。

午後5時30分より総会開始。喜嶋彦彦会長(昭和44年卒)の挨拶に始まり、朱山秀雄代表学年幹事(昭和50年卒)から運営報告、羽田泰彦代表学年幹事(平成5年卒)による会計報告、守口武司会計監事(昭和43年卒)による監査報告と進み、満場一致で承認されました。引き続き役員改選が承認され、鈴木龍男新会長(昭和49年卒)から今後の会運営の方針が打出され、続いて新年度の予算案が提示され、滞りなく総会が終了しました。

引き続き、九州大学大学院工学研究院長の山田淳先生による、「化学で拓くブラズモノクス」―伊都キャンパスからのメッセージ―と銘打った記念講演が行われました。産学連携の実例を交えた分かりやすい講義は、満場を沸かせながら、なおかつ後進に対する期待にあふれ、心打たれました。

その後、金森廣副会長(昭和48年卒)の司会で、懇親会に移り、喜嶋会長から4年間を振り返っての挨拶に始まり、梶山千里親和会会長(昭和39年卒)のご祝辞を頂戴し、鈴木新会長の音頭で乾

杯し、参会者一同旧交をあたためながら歓談しました。

杯が進むにつれ、あちこちから歓声が聞かれました。先生方や会員有志からも挨拶があり、時節を得た話題で大いに盛り上がりました。

高尾義行副会長(昭和45年卒)の中へ挨拶の後、名残を惜しみつつ再会を約束し散会しました。

在京親和会会長鈴木龍男
(昭和49年・工学部卒)
〈事務局〉
〒135-0016

東京都江東区東陽5-7-12

睦美マイクロ(株)東京支店内

TEL: 03-5690-7275

FAX: 03-5690-7276

E-mail: m-nakahara@nutsumi-m.com

梶山会長の祝辞



山田研究院長の講演

九州大学学生寮同窓会30周年記念祝賀会の開催について

日時:平成26年7月19日(土)14時開会

会場: Cafe & Dining フォレストタワーの門

東京都港区虎ノ門1-14-1

郵政福祉琴平ビル1F

虎ノ門フォレストタワー

TEL: 03-5510-5857

<http://cafefofo.com/>

交通: 東京メトロ銀座線「虎ノ門」駅

徒歩3分、東京メトロ丸の内線・

日比谷線・千代田線「霞ヶ関」駅

徒歩5分、営団地下鉄三田線「内

幸町」駅徒歩5分、JR「新橋」

駅徒歩10分

会費: 5000円

(ただし、小学生以下の子供は無料、
中学生2000円)

日程: 14時~17時「半生を語る会」

(ブレゼン大会)

○「寮生活から今への繋がり」

中外製薬株式会社研究本部創薬薬

理研究第一部研究員 市田康弘(平

成17年農学部卒、平成19年・生物資

源環境科学府修了)

○「寮で学んだ、ビジネスからボラン

ティアまで同時多発的展開で痺れ

て生きる方法」

キーストンフィナンシャル株式

会社代表取締役 大坪勇二(昭和

63年・経済学部卒)

○「卒業した時に想像できなかった私の半生、今の自分」

トランスコスモス株式会社執行役

員 松原健志(昭和62年・工学部卒)

○「あの頃僕らは・・・」

株式会社商工組合中央金庫総務部

参事役大谷紳一郎(昭和62年・経済

学部卒)

○「学生寮の生活で学んだこと」

雪印メグミルク株式会社ミルクサ

イエンス研究所主幹 川崎功博(昭

和60年・理学部卒、昭和62年・理学

研究科修了)

17時~18時

記念講演

○「感謝―激動の半世紀(半生期、反省

記)」

NTT西日本シニアアドバイザー・

元NTT西日本代表取締役社長

上野至大(昭和42年・工学部卒)

18時~20時

30周年記念祝賀会(祝宴)

参加申込: 7月17日(木)までに、

梅小路学(関東地区幹事)

E-mail: umekoji@mucj.co.jp

まで、申込ください。

九州大学学生寮同窓会副会長

(30周年記念祝賀会担当)

高橋義人(昭和59年・理学部卒)

青色の発光効率100%に
九大成功 第3世代有機EL
(3/3 西日本・日経、3/4 産経)

ひと 台湾の山本作兵衛展で
解説をした
田川市石炭・歴史博物館学芸員
福本寛さん〈九大卒〉
(3/3 西日本)

生命科学分野で有望な若手
女性研究者大賞「ロリアル・ユネ
スコ女性科学賞 国際奨学金」に
小澤未央 医学研究院 学術研究員
(3/4 読売・毎日、3/23 西日本)

アインシュタイン草稿
慶応大に寄贈
来日時に三宅速 九州帝国大
教授に宛てたもの
(3/4 毎日)

異摩話武可誌
ボストン和本調査 悉皆調査
和本探検隊今日も行く 松原孝俊
韓国研究センター 教授、
比較検討 宝の山が一覧できた
中野三敏 名誉教授、僥倖
収集家の眼力 美術館の努力
ロバート・キャンベル氏
(3/4・3/5・3/7・3/18・3/27 西日本)

学術芸術文化新たな拠点
九大伊都キャンパスに
「椎木講堂」
大学最大級3000人収容
外部への貸し出しも
(3/4 朝日、3/5 西日本・朝日・読売、
3/6 糸島)

寄り添う心ずっと
学生ボランティア支援に自問自答
九大3年 田中惇敏さん中心と
なって団体立ち上げ
(3/5 朝日)

理工系女性の想い
研究・育児両立のヒント
パナソニック先端技術研究所参
事 脇田由実さん〈九州芸工大
(現九大) 卒〉
(3/5 日刊工)

成果出すため根気強く
海の「磯焼け」を研究
理学府修士1年 松元愛さん
(3/6 西日本)

夢野久作「ドグラ・マグラ」
初期原稿を九大で公開
(3/6 西日本)

入試 中・後期「二段階選抜」
5588人不合格 九大は15人
(3/6 西日本・読売)

宇宙基地 若田さん船長就任
アジア初「大役、誇りに」
若田光一さん〈九大卒〉
(3/7・3/8 読売、3/9 産経、
3/10 西日本・読売・産経・毎日・朝日)

2197人に「春」
九大で前期合格発表
(3/8 毎日・読売・朝日・西日本、3/9 毎日・
読売)

防犯アイデア学生の提案も
青パトフォーラム
九大生取り組み提案
(3/9 西日本)

九大見聞録
低い志願倍率に衝撃
大西直人 法学研究院 客員教授
(3/9 西日本)

知の拠点セミナー
数学を社会に生かす
若山正人 マス・フォア・インダストリ
研究所長
(3/9 読売)

凶暴スズメバチ、国内に
中国原産、長崎・対馬に定着
生態系に悪影響のおそれ
上野高敏 農学研究院 准教授
(3/10 日経)

最先端医療でアジアの中核病院
へ 次期九大病院長 石橋達朗
教授
(3/11 産経)

誰でも演奏家
アプリ世界一「新世代楽器」
福岡市の中村俊介さん
九州芸工大(現九大) 博士課程
時に技術開発、起業
(3/11 西日本)

九大生ら学生ボランティア団体
宮城へ派遣 計300人
(3/11 毎日)

大西巨人さん死去
97歳作家「神聖喜劇」
〈九州帝国大中退〉
(3/13 西日本・毎日)

患者、満足する医療を提供
次期九大病院長 石橋達朗 教授
が抱負
(3/13 毎日)

かじ取り「和の心で」若田船長が
初会見 国際宇宙ステーションの
船長になった若田光一さん
〈九大卒〉
(3/14 西日本・朝日・読売・日経)

六本松物語 九大跡地
緑と文化、教育が薫る街へ
住民の意向反映 再開発を一括化
(3/14 毎日)

大学自炊のススメ 九大など取り
組み 食生活改善へ講義 受講で
単位必修科目も
(3/15 読売)

提論 明日へ 川副正敏さん〈九大
卒〉弁護士 法テラスの現場から
司法と福祉の連携急務
(3/16 西日本)

九大伊都キャンパス連絡橋完成
3世代3家族渡り初め
(3/17 毎日、3/18 西日本、3/20 糸島、
3/29 朝日)

新刊「理性の暴力」
自らを疑い格闘した軌跡
古賀徹 芸術工学研究院 准教授
(3/17 西日本)

脊振牧場で乳牛終了
福岡市、育成今年度限り
九大と活用協議
(3/18 読売)

次期数理学研究院長に
原隆 教授を選出
(3/18 西日本)

がん進行数式で予測
東大や九大、遺伝子異常に着目
転移防く治療に道
(3/18 日経)

医師国家試験合格率90%超
2年ぶり 九大は88.0%
(3/19 読売)

女性活躍の場 どう拡大
管理職登用 遅れる九州企業
「優遇せずに仕事任せて」
塩次喜代明 名誉教授
(3/20 西日本)

警固断層M7.2想定
液状化内陸部でも
九大防災地盤工学研究室試算
建物全壊広範囲に
笠間清伸 工学研究院 准教授
(3/20 西日本)

古切手2万5000枚寄付
九大箱崎キャンパス警備員
岡野さんが市社協に
(3/20 毎日)

デザインで人と人をつなぐ
松岡恭子〈九大卒〉の一筆両断
魅力的な川で都市景観をより豊
かに…
(3/20 産経)

「手軽な農」住宅街に
九大、福岡・久山町など産学官
中央に共有農地、来年完成
(3/20 西日本・毎日、3/26 読売)

健康的な日本型食生活
サイエンスキャラバン
今泉勝己 理事・副学長
(3/20 糸島)

福岡と大野城 強震動の恐れ
警固断層帯 九大など調査
(3/21 読売)

桜の名所と避難所マップ化
春日のNPO桜見散歩企画
総合理工学府で学ぶ外国人留
学生50人も参加予定
(3/21 西日本)

人口減へ先手 九州・山口・沖縄
移住者や子育て支援、観光戦略も
高野和良 人間環境学研究院
准教授
(3/22 読売)

緑の大地へ 人々とともに
ベシワール会現地代表
中村哲さん〈九大卒〉
(3/23 読売)

「大唐街再現を」「博多弁も魅力」
景観やおもてなし、意見交わす
博多千年門落成控エフォーラム
坂井猛 新キャンパス計画推進室
教授
(3/23 西日本)

「成人移行期」専門外来
慢性疾患の小児患者
九大病院に全国初
(3/23 西日本)

TOTO最高顧問
重淵雅敏氏〈九大卒〉
初の海外生産 現地指揮
(3/25 読売)

アートにも「経営」の波
息長い活動へ 魅力・財源づくり
九大芸術工学研究院と九響連携
「九響ジャンプ!トークセッション
&ライブ」
(3/25 朝日)

西日本シティ銀行と協定
九大、VB育成など連携
(3/25 日経、3/29 西日本)

九大 伊都で初の卒業式
(3/25 読売・毎日・西日本、3/26 毎日・西日本)

日立工機新社長に前原修身氏
〈九大卒〉
(3/26 朝日・毎日・産経・西日本・日経)

原子炉の劣化 ナノ単位分析
九大応力研が最新顕微鏡導入
渡邊英雄 応用力学研究所 准教授
(3/26 西日本)

はせがわ新社長に井上健一氏
〈九大卒〉
(3/28 日経・産経・読売・朝日・西日本)

九大箱崎キャンパス跡地緑豊かな
街に 跡地利用検討 有識者協
議会が計画案示す
(3/28 西日本)

がん予防 報告書を邦訳
運動や食事 数値目標
廣畑富雄 名誉教授
(3/28 西日本)

軍師の素顔 創る 拓く
官兵衛のまち
丸山雍成 名誉教授
(3/28 西日本)

歯の治療器具 3D印刷で
九大と佐川印刷
個人に合わせ精密設計
インプラント、不具合減少
住田知樹 九大病院 講師
(3/28 日経産業)

特区指定「成長のエンジンに」
期待と注文 産学官連携で水素
エネルギー研究先行
有川九大総長も
(3/29 西日本)

九大生を育む「白い船」YMCA
名島寮、キャンパス移転で岐路に
(3/29 朝日)

クラシック月評2～3月
九大から芸術発信
西田紘子 芸術工学研究院 助教
(3/29 西日本)

九大箱崎キャンパス
跡地に6ゾーン設定
敷地の道 幹線道路結ぶ
(3/30 読売)

築100年以上の空き家再生
九大生らリノベーション
地域の交流拠点に
(3/30 読売)

大学生が政策報告
就業体験通し考案
九大ら5大学の70人参加
(3/31 毎日)

平成26年2月

食品廃棄物→飼料→養豚→
食材普及
地域循環型社会を目指す
中司敬 名誉教授
プロジェクト会社設立
(2/1 毎日)

西川文科副大臣と九大生ら
教育テーマに意見交換
(2/2 読売)

屋久島産の人工杉「香り」の
活用提案 天神で子育てセミナー
清水邦義 農学研究院 助教
(2/2 西日本)

西南戦争の暗号表など
資料発見 類例がなく驚いた
中野三敏 名誉教授
(2/3 西日本)

ジャグリングの常識を変えたい
IOC委員に演技披露も
国内外で活躍する大道芸人
望月ゆうさくさん(九大卒)
(2/3 毎日)

次期薬学研究院長に
大戸茂弘 教授、
次期応用力学研究所長に
大屋裕二 教授を選出
(2/4 西日本)

亡き父の生涯追憶のエッセー
片山恭一さん(九大卒) 新著
「その鳥は聖夜の前に」
(2/4 朝日)

「君も船長を目指して」
若田光一さん(九大卒)
母校九大で交信イベント
(2/5 西日本・日経・毎日・読売)

アルツハイマー病治療に
有効物質か
臨床試験で認知機能改善
九大・福岡大など研究グループ
(2/5 朝日・毎日)

足の関節リハビリ
安川電機が新装置国内外で
展開へ 九大との共同開発
(2/5 読売)

造船に新溶接技術
九大など 強度や品質向上
(2/6 西日本)

食材、工房・・・まちをセールス
糸島ブーム原点を語る
松本糸島市長が講演
伊都キャンパス移転進む九大と
毎年100を越す連携交流事業
(2/7 西日本)

着物で「恋チュン」箱崎PR
愛好家らが動画、ネットで来月公開
九大箱崎キャンパス内などで
(2/9 西日本)

ウナギ観察しなぞ解明を
九大でシンポ
(2/11 西日本)

「節約袋」医療費削る
飲み忘れ持参、処方量調整
薬剤費2割減も 県内の薬剤師
会 島添隆雄 薬学研究院 准教授
がデータ分析
(2/12 西日本)

バングラの村遠隔診療
九大など実証実験
予防医療事業に、担い手は女性
アハメッド・アシル システム情報
科学研究院 准教授、
中島直樹 九大病院 准教授
(2/12 読売)

大学禁煙化拡大中
喫煙デビュー防ぐ 九大は10年度
から「卒煙Qプログラム」導入
(2/12 西日本)

トゥクトゥクで糸島観光
九大と糸島市 試験運行
学生が運転、無料案内4月から
(2/13 読売・朝日・毎日、2/14 西日本、
3/8産経・日経)

三角縁神獣鏡
魔鏡現象から見えるもの
新たな研究の方向性を拓く
辻田淳一郎 人文科学研究院
准教授
(2/13 西日本)

5感をデジタル中
味覚・嗅覚「おいしい」を数値に
九大発VB 人工「舌」が分析
都甲潔 システム情報科学研
究院 主幹教授
(2/14 日経)

次期九大病院長に
石橋達朗 教授を選出
(2/14 朝日・西日本)

九大と由布市が協力協定
(2/14 西日本)

アジア文化発信に幕
福岡で九大生最後の美術展
受講生減り継続困難に
(2/14 毎日、2/22 朝日)

次期統合新領域学府長に
内山誠 教授、
生体防御医学研究所長に
佐々木裕之 主幹教授を選出
(2/15 西日本)

トマス・アキナス
存在と善の追求2作刊行
「日本人の助けになる」
稲垣良典 名誉教授
(2/15 読売)

わたしの出発点⑤
歴史認識「当時の目線」で考える
福岡市博物館長
有馬学 名誉教授
(2/15 毎日)

目指せコンフェデ!!
まずはベンチから…
旭硝子 九大にルーフ寄贈
(2/16 西日本)

若田光一さん(九大卒)、
来月 国際宇宙ステーション
船長に
(2/17 日経産業、2/22 西日本・産経)

松枯れ被害の実態
現地を歩いて検証 糸島市幣の浜
玉泉幸一郎 農学研究院 准教授
(2/17 西日本)

九大の人脈生かし活動
北京在住九大卒業生親睦組織
北京筍崎会会長 辺見寧さん
(2/17 西日本)

遺伝子改変効率的に
広島大ゲノム編集で新技術
九大なども国産技術の確立
目指す
(2/17 日経産業)

おいしさ数値化 味覚センサ応用
都甲潔 システム情報科学研
究院 主幹教授
(2/18 西日本)

九大の象徴保存へ
箱崎キャンパス旧工学部本館
など3棟 跡地売却活用が条件
「歴史的価値高い」
(2/18 西日本)

九大六本松跡地JR九州が落札
(2/18 西日本・産経・朝日・読売・毎日、
2/19 毎日・産経)

海老井悦子 福岡県副知事
(九大卒) 再任へ
(2/18・2/19 西日本)

九大、アジア研究新拠点来月開設
米スタンフォード大と運営
全国初、文系で連携
(2/20 西日本)

神経障害性疼痛酵素が関与
九大チーム原因特定、
治療薬開発へ道
(2/20 読売、2/21 西日本)

草双紙 未知の21冊
江戸庶民の娯楽本 米国に
九大チームハワイで発見
学術調査団団長は 松原孝俊
韓国研究センター 教授
(2/21 西日本)

15人の即興一つの曲に
九大橋キャンパスで23日に
主催は芸術工学研究院
藤枝守 教授の研究室
(2/22 西日本)

「九響ジャンプ!」
オーケストラに公共性を
九大主催でトーク&ライブ
芸工ホールマネジメントエンジニア
養成講座で九響共催
コーディネーター 中村滋延
芸術工学研究院 教授
(2/22 西日本)

「自然は活用して守る」
新宮町環境フォーラム始まる
朝廣和夫 芸術工学研究院 准教授
(2/23 西日本)

食事代一部途上国の給食に
注文で1食分20円寄附
福岡パルコなど 九大学生団体
「TFT九州ユニバーシティ」
(2/23 読売)

先端研究 防波堤崩壊メカニズム
笠間清伸 工学研究院 准教授
(2/24 読売)

国立大2次試験始まる
女子、理系を志す 大学も勧誘に
懸命 九大は女性教員や大学院
生らインタビューまとめた冊子
5000部超発行、無料配布
(2/25 日経・毎日・読売・西日本・産経・
朝日など)

盗難の仏像 安住の地は?
流出文化財めぐり日韓摩擦
「交流で入手」「略奪された」
認識に差 河野俊行 法学研究院
主幹教授
(2/25 朝日)

次期情報基盤研究開発センター
長に谷口倫一郎 システム情報科
学研究院 教授を選出
(2/26 西日本)

PM2.5初の午後予報 福岡市
竹村俊彦 応用力学研究所
准教授
(2/26 読売)

病室の絆 難病患者奮起
就労理解求め集い企画
九大3年 池崎悠さんら
(2/26 西日本・読売)

JFEエンジニアリング新社長に
狩野久宣氏(九大卒)
(2/27 日経)

来月2日の小水力発電シンポ
「小水力発電をすすめる会」
九大工学研究院と共同で導入
可能性調査 島谷幸宏 工学研
究院 教授
(2/27 西日本)

11/9福岡マラソン詳細コース発
表 都市と海駆け抜ける
九大伊都キャンパスも
(2/27 西日本・日経・読売)

警固断層長さ50キロ、深さ15キロ
九大調査で判明
「被害予測データに」
(2/28 西日本)

春闘私の視点
中間管理職の賃上げを
西山芳喜 法学研究院 教授
(2/28 西日本)

生活習慣病ホントの話
肥満で心筋梗塞、脳卒中に
小池城司 九大病院 特任准教授
(2/28 西日本)

若者が集まりたくなる地域
都会と違う「価値観」「選択肢」を
まちおこし団体「津屋崎ランチ」
代表 山口覚さん(九州芸工大
(現九大) 卒)
(2/28 西日本)

中津の五百羅漢日本最古
別府大「1360年完成」文献発見
井手誠之輔 人文科学研究院
教授
(2/28 西日本)

A級小学生 競技かるた全国唯
一の保持者 九大生に交じって
腕磨く 九大百人一首愛好会に
も通う
(2/28 西日本)

平成26年3月

スターフライヤー新社長に
全日空OB 松石禎己氏(九大卒)
(3/1 毎日・朝日・読売、3/20 毎日・読売・
日経)

政治家選び、お菓子選びと同じ?
有権者7割、候補とSNS望まず
九大院生ネット分析、きょう発表
(3/2 朝日)

KYUSHU UNIVERSITY OPEN CAMPUS 九州大学オープンキャンパス2014

詳細については6月にWebサイト等でお知らせします。http://www.kyushu-u.ac.jp/

8/2 SAT

理学部
工学部
芸術工学部
農学部
21世紀プログラム

3 SUN

基幹教育院
文学部
教育学部
法学部
経済学部
21世紀プログラム

4 MON

医学部
歯学部
薬学部



お問い合わせ・お申し込み先

九州大学学務部入試課 〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1 TEL.092-642-4488 FAX.092-642-4485 E-mail:nyuac@jimu.kyushu-u.ac.jp

九州大学応用力学研究所 RIAMフォーラムのご案内

本年度も下記の要領で公開研究発表会RIAMフォーラムを開催いたします。初日の前半は、学会賞の受賞等、際立つ業績を上げられた方々に講演していただき、後半は、力学における共同利用・共同研究拠点として、他機関の方々が当研究所において実施された興味深い研究について発表していただきます。二日目は、研究所内の全研究室から、最近のトピックス的研究を発表してもらいます。ご多用中恐れいりますが、多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。(応用力学研究所長 大屋裕二)

■日時

2014年6月5日(木) 13:00～/6日(金)9:00～

■会場

九州大学筑紫キャンパス 共通管理棟3F 大会議室

■プログラム

6月5日(木) 13:00～17:30 座長：岡本 創

I. 所長挨拶及び研究所の現状と将来計画

II. 受賞記念講演 (13:15～14:45)

鳥谷 隆：レンズ風車の開発過程と現在の状況
東藤 貢：バイオマテリアルと幹細胞のハイブリッド化による関節組織再生
稲垣 滋：乱流プラズマにおける非拡散的輸送

III. 共同研究招待講演 (15:00～17:00)

岩下英嗣(広島大学)：浮体式洋上風車発電ファームの波浪中動揺特性に関する研究
中井賢治(岡山理科大学)：風レンズ風車用の炭素繊維強化複合材(CFRP)の衝撃圧縮特性の評価
辻 俊宏(石川県水産総合センター)：対馬暖流域におけるブリ卵・仔稚魚の輸送シミュレーション
杉本周作(東北大学)：日本海・西部北太平洋での大気海洋間熱交換関係の理解
大矢恭久(静岡大学)：タングステン混合堆積層における炭素・照射欠陥分布と水素同位体滞留挙動
福山 淳(京都大学)：トロイダルプラズマにおける統合モデリングの進展

IV. 総合討論

6月6日(金) 9:00～16:25 座長：胡 長洪、東藤 貢

I. 制御に関する研究紹介 (9:00～9:40)

長谷川真：大型装置QUESTにおけるプラズマ制御とそのシステム
吉田茂雄：浮体式ダウンウインド風車の動揺と制御

II. 乱流・波動に関する研究紹介 (9:40～11:55)

山本 勝：惑星大気における双子渦
市川香、宮澤泰正：小笠原沖深海のダイオウイカの出現予測
広瀬直毅：日本海沿岸域における急潮発生の数値予報
千手智晴：日本海深層における近慣性内部波の伝播過程
辻 英一：Benney-Luke方程式の数値計算と水槽実験
—二次元非線形波動の詳細な解析に向けて—
佐々木真：プラズマ乱流実験と協調したシミュレーション研究

III. 固体物性・構造に関する研究紹介 (13:30～15:25)

東藤 貢：ナノ複合多孔質材料を応用したバイオ燃料電池の開発
汪 文学：小型風レンズ風車CFRPブレードの動的挙動と強度に関する実験研究
末吉 誠：養殖生簀などの水中挙動に関する数値計算
大澤一人：核融合炉材料への水素吸蔵の研究およびその金属物性への応用
Bing Gao, 柿本浩一：A global modeling of crystal growth for energy and environment based on nonlinear dynamics.

IV. 物質輸送に関する研究紹介 (15:25～16:25)

江口菜穂：アジアモンスーンと成層圏の科学
鷗野伊津志：化学輸送モデルと観測を統合したエアロゾル同化モデルによるアジア大気環境の研究
磯辺篤彦：沿岸海洋環境研究の最前線

編集後記

今回の「フロントランナー」は、次世代ロケットエンジンを研究されている総合理工学研究院の山本先生に、筑紫キャンパスでお話を伺いました。山本先生は、プラズマ（ロケット）エンジン内部の基礎的な動作の解析から、実際の各種プラズマエンジンの開発まで広く研究されており、わくわくするお話を伺えました。インタビュアーの力不足のため、紙面にはその一部しか掲載できないのが残念です。

一番面白かった—といっっては不謹慎かもしれませんが—のは、「失敗」のお話でした。「みんなで協力して作り上げたプラズマエンジンの実験が、ちょっとした見落としのためにうまくいかないことがある。高価な機材が壊れてしまうこともある。しかしその経験を共有して次につなげてほしい。」というお話が印象的でした。

5月14日に、本学OBである若田光一さんが宇宙から帰還されました。それも何かの縁かもしれません。

広報専門委員会委員
情報基盤研究開発センター 准教授
鈴木 孝彦

九大の最新情報は「九大広報」の定期購読で。

九州大学同窓会連合会では、九州大学の姿をご理解いただくため、同窓会や在学生のご家族の皆様をはじめ、広く一般の方々にも「九大広報」の定期購読をお願いしています。定期購読は1年間6巻分（隔月発行）3,000円でお受けいたしておりますので、ご希望の方は、同窓会連合会事務局までご連絡をお願いします。

九州大学同窓会連合会事務局

TEL.092-802-2158

FAX.092-802-2149

E-mail:sycdo-rengo@jimu.kyushu-u.ac.jp

健全で快適なキャンパス環境をめざして

九州大学では、健全で快適なキャンパス環境を実現するため、
セクシュアル・ハラスメント及び
これに類する人としての尊厳を侵害する行為を「ハラスメント」と定義し、
ハラスメント行為の防止・対策に取り組んでいます。

◎ハラスメント相談室

近年の様々なハラスメント事案に対して、内容に応じた適切な問題解決・救済に努めるため、箱崎キャンパスにハラスメント相談室を設置し、3名の専任職員を配置しています。また、2013年7月から伊都キャンパスへの出張相談を実施しています。

なお、相談窓口として各キャンパスに配置している相談員にも相談できます。

【利用方法】

- ①開室時間は月～金曜日（祝日を除く）10時～17時、伊都キャンパスへの出張相談は毎週火曜日13時～16時です。
相談を希望される方は、事前に電話などで予約をおとりください。
- ②事前の予約は、相談室Webサイト内の相談予約申込フォーム、電話、FAX、E-mailにて受け付けております。

【アクセス】

〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1 箱崎キャンパス

旧工学部本館2階202号

TEL:092-642-2772 FAX:092-642-2773

E-mail:syjsoudan@jimu.kyushu-u.ac.jp

Webサイト:http://harassment-cc.kyushu-u.ac.jp/

◎九州大学ハラスメント対策ガイドライン

本学の構成員に対し、ハラスメントの防止と問題解決についての基本的な取組を周知するため、2012年2月に「九州大学ハラスメント対策ガイドライン」を定め、本学Webサイトに掲載しています。

なお、2013年度より苦情申立の手続きが変更になり、調査または調整のいずれかの手続きを選択することが可能になりました。詳しい内容は下記Webサイトをご覧ください。

Webサイト <http://www.kyushu-u.ac.jp/>（総合情報→ハラスメントの防止・対策）

◎ハラスメントの相談件数等

2013年度の九州大学におけるハラスメントの相談件数等は、次のとおりです。

- ・相談窓口の相談員に相談があった件数は、65件です。
- ・そのうち正式な苦情申立に至った件数は、4件です。
- ・懲戒処分を行った事案はありません。

苦情申立に対しては、本学所定の手続きにより、必要な措置等について審議されます。

（総務部職場環境室）



椎木講堂

—九州大学の新しい学術文化の拠点完成—

2014年2月に完成した「椎木講堂」は、本学の基本理念に共感いただいた椎木正和様（三洋信販株式会社創業者）より、本学の創立百周年を機にご寄附いただいたものです。今後、さまざまな行事やイベントを通して、本学の新しい学術文化の拠点となっていくでしょう。



①ホール
全体で最大約3,000席（1階から2階部分で約1,000席、2階から3階部分が約2,000席）のホールです。

②ガレリア
半円状の巨大なオープンスペースで、入学式や学位記授与式をはじめ、教職員・学生、市民の憩いの場として利用します。

③ギャラリー、展示コーナー
本学の貴重な所蔵資料や標本等を展示。現在、オープニング展示として「九州大学百年の至宝」展開催中。

④講義室
ホール後方部分は、可動式の防音壁で分割することにより講義室や小規模な講演会場として利用可能です。

住所変更ほか、発送についてのお問い合わせは、封筒記載の連絡先へお願いします。

九州大学広報室 TEL：092-802-2130 E-mail：koho@jimukyushu-u.ac.jp
九州大学学生後援会 TEL：092-802-5968 E-mail：gagkouenkai@jimukyushu-u.ac.jp
九州大学同窓会連合会 TEL：092-802-2158 E-mail：sycco-rengo@jimukyushu-u.ac.jp

